

平成22年度使用

中学校用教科用の 図書の選定に必要な資料

島根県教育委員会

選定に必要な資料

国語科 No.1

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
A	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域とも, 学年段階に応じた適切な内容・程度の教材を取り入れている。 ・説明的文章や古典教材には, 読解を助けるためにカラー写真や図版・グラフが付けられている。(1年 p.22, p.80) ・脚注に辞書で意味を調べる語句を示すととともに, その類義語を数多く示すことで, 生徒の語彙を無理なく増やせるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習が系統的にできるよう, 『構成をとらえよう』『表現を味わおう』など単元名がすべて学習目標で示されている。 ・第1学年の最初の説明文教材を『脳の働きを目で見よう』とし, 音読が脳を活性化させることを理解した上で全体の学習を進める構成となっている。(1年 p.22) ・発展的な学習を可能にするために, 詩や短歌・俳句教材は, 本編に作品, 資料編に味わい方についての評論を示す単元構成となっている。(2年 p.10, p.204) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材ごとの学習課題には, 学習課題の解決のための『学習のポイント』を合わせて示し, 主体的な学習が進められるよう工夫されている。(1年 p.30) ・生徒自らが計画を立てて学習を進める『わたしの国語学習』という単元を全学年に設定し, 学習意欲を喚起するよう配慮がされている。(1年 p.144) ・生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう, 『話す・聞く』のそれぞれの単元には, 自己評価の観点が見出しシートとともに載せてある。(1年 p.37) ・全学年ともB4判の折り込みページは, 「ことば」に対する興味を喚起する内容となっている。(1年 p.101) 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書生活の充実を図るために, 全学年とも読書単元を設定し, 文学作品だけでなく評論文も紹介するとともに, 推薦図書の本紙をカラー写真で紹介している。(1年 p.72) ・情報を分析・活用する力が体系的に身に付くよう, 情報に関する説明的文章が各学年に掲載されている。(3年 p.22『テレビ映像の本質』) ・小学校で学習した漢字の定着を図るよう, 各教材末にドリル学習のコーナーが設けられている。(1年 p.31) 	<ul style="list-style-type: none"> ・判型はB5判であり, 脚注の充実や3段組での教材提示など, 情報量を増やす工夫がなされている。(1年 p.194) ・学習計画を立てやすいように, 目次に学習目標が明記されている。 ・言語感覚を磨くために, 『落葉松(北原白秋)』のような音読や暗唱に適した詩や古典教材が紹介されている。(全学年の中央折り込み)
<p>・全学年とも, 巻末の資料編の中に, 『日本文学史』と『日本文学史年表』が掲載されている。作品名だけでなく各年代の代表的作品の冒頭部分を紹介し, 興味・関心を高めるよう配慮されている。</p>					
E	<ul style="list-style-type: none"> ・文学教材に長文の教材が多いが, 各領域とも学年段階に応じた内容・程度の教材を取り入れて, 無理なく学習ができるようにされている。 ・読解を助けるために, 脚注部分に, 語句の説明に加え, カラー写真が付けられている。(1年 p.79) ・漢字の定着を図るために, 脚注に新出漢字とともに, 小学校6年生で学習した漢字が提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の達成度を考えながら学習を進められるように, 巻末に, 『学習の目標と評価について』が掲載されている。 ・各単元末には, 『深める・広げる』として, 補充学習のための教材が1作品掲載されている。(1年 p.52) ・最終単元は, 全学年『総合』とし, 「読むこと・書くこと」と「聞くこと・話すこと」を統合し, 生徒が計画を立てて学習できる単元構成となっている。(1年 p.262) 	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な学習や既習教材との関連づけができるように, 教材ごとの学習課題には, 『探究』や『振り返り』というコーナーが設定されている。(1年 p.107) ・教材への興味・関心を高めるため, 教材の途中に見開きのカラー写真や図版を付けた説明的文章や古典教材がある。(1年 p.107, 2年 p.154) 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の特徴についての理解を深め, 表現に生かしていけるよう, 『情報と表現』という小単元が全学年に設定されている。(1年 p.256『コピーライターの発想と技』) ・言語事項の定着を図られるように, 漢字や言葉の学習には, 練習問題が豊富に取り入れられている。(1年 p.48) 	<ul style="list-style-type: none"> ・判型はA5判である。従来より約30ページ増え, 補充教材等が掲載されている。 ・言語感覚を磨くために, 全学年の見開きには『雲(山村暮鳥)』のような音読に適した詩とその解説が掲載されている。
<p>・全学年の巻末の付録の中に, 『日本文学史年表』が掲載されている。年代ごとに地色を変え, 見やすい工夫がされている。</p>					

選定に必要な資料

国語科 No.2

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
F	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域とも学年段階に応じた無理のない内容・程度の教材が取り入れられている。 ・説明的文章や古典には, 読解を助けるためにカラー写真や図版・グラフが付けられている。(3年 p.69) ・詩のイメージを広げるために, 写真を背景全面に取り入れた教材がある。(3年 見開きと p.48) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本編と資料編の二部で構成されている。本編と関連させながら, 資料編が活用できるように配慮されている。(3年 p.145) ・学習のねらいを考えながら取り組めるよう, 巻頭に, 教材ごとの学習目標の一覧が示されている。 ・共同作業を通して, 情報を整理し発表技能を高めるために, 全学年とも, 最終単元に『ワークショップ』という単元が設定されている。(3年 p.118) 	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な学習ができるように, 教材ごとの学習課題には, 『学びを広げる』というコーナーが設定されている。(3年 p.97) ・生徒が興味をもって文法学習に取り組めるよう, クイズ形式を取り入れるなど, 導入部分が工夫されている。(3年 p.32) ・言語事項の例文は, 教科書中の文章を引用し, 生徒が興味をもって学習できる工夫がされている。(3年 p.35) ・全学年ともカラー版の写真・挿絵が多く用いられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『読書案内』を資料編の中に位置づけ, 推薦図書として古典や詩など様々なジャンルの図書が内容別に紹介されている。 ・情報を分析・活用する力が身に付くように, 第3学年に『メディア・リテラシー』という説明文が設定されている。(3年 p.34) ・巻末の新出漢字一覧には, 多色刷りで筆順や用例が示され, 学びやすい配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・判型はB5判であり, 活字を大きくしたり, 余白を多くしたりするなど, 読みやすくなるよう工夫がなされている。 ・言葉に関する様々な資料が, カラー写真とともに資料編に載せられ, 学習への意欲を高める工夫がされている。(3年 p.146)
<p>・第3学年に, 折り込み付録として『日本文学史年表』が掲載されている。多色刷りにして, 見やすくなる工夫がされている。</p>					
G	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域とも学年段階に応じた適切な内容・程度の教材が取り入れられている。 ・説明的文章や古典には, 読解を助けるためにカラー写真や図版・グラフが付けられている。(1年 p.180) ・生徒の語彙を豊かにするために, 脚注には, 語句説明に加えて, 言葉の由来が掲載されている。(1年 p.34) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を三部構成とされている。第一部は『必修』とし, 教材を領域ごとに提示されている。第二部は, 『選択』として補充教材を, 第三部は『言語・知識』として新出漢字等の言語事項がまとめて提示されている。 ・教材を領域ごとに示すことで, 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習が系統的に進められるよう工夫されている。 ・「書くこと」の学習では, 基本技能の習得・練習のために, 『文章名人』というコーナーが全学年に設定されている。(1年 p.128) 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な追究活動ができるよう, 教材末の学習課題には, 主たる課題とともに発展的な課題や読書案内が示されている。(1年 p.46) ・国語学習に興味をもって取り組めるように, 全学年の見開き部分にイラストを用いて, 言葉や情報分析に関するコラムが取り入れられている。 ・生徒が意欲をもって取り組めるよう, 漢字の学習は書き込みができるワーク形式にされている。(1年 p.218) ・言葉とイメージの関係を, 視覚的に表現した教材を取り入れられている。(1年 p.180) 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書生活の充実が図られるよう, 読書教材は, 全学年とも第一部の『必修』の中で紹介され, 作品と共に, 本の選び方のコラムが載せられている。また, 資料編には推薦図書が紹介されている。 ・学習への意欲を高めるよう, 第三部の中に, 言葉や作品に関する情報がコラムの形で紹介されている。 ・情報収集や分析する力が系統的に学べるよう, 全学年に『メディア』として教材が設定されている。(2年 p.52 新聞投書の比較読み) 	<ul style="list-style-type: none"> ・判型はB5判である。領域別に色枠を付けたり, 活字を大きくしたり, 余白を多くしたりするなど, 読みやすくなるよう工夫がされている。 ・言語感覚を磨くことができるよう, 古典教材の中に, 『声に出して読んでみよう』というコーナーが設定されている。(2年 p.17, 3年 p.18)
<p>・巻末に折り込み付録として, 『漢字虎の巻』(第1学年), 『日本文学史年表』(第2学年)と『文語文法活用表』(第3学年)が掲載されている。</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

国 語 科 No.3

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
J	<p>・各領域とも学年段階に応じた適切な内容・程度の教材がバランスよく取り入れられている。</p> <p>・説明的文章や古典には, 読解を助けるために資料性の高いカラー写真や図版が, 小説や短歌には作者の生い立ちや時代背景などに関する資料が付けられている。 (2年 p.107, p.127, 3年 p.102)</p>	<p>・学習のねらいを考えながら取り組めるよう, 巻頭に教材ごとの学習目標の一覧が示してある。</p> <p>・調べたことを発表したり文集にまとめたりする力が身に付くよう, 全学年とも最終単元に「話すこと・聞くこと」と「書くこと」とを統合した単元が設定されている。(3年 p.170)</p> <p>・一つの単元の中に, 「読むこと」「書くこと」の教材を提示し, 理解と表現とを関連づけて学習できる構成になっている。 (2年 p.129)</p>	<p>・教材ごとの学習課題には, 学習課題解決のための『学習の窓』を合わせて示し, 主体的な学習が進められるよう工夫されている。(3年 p.101)</p> <p>・学習が意欲的に進められるように, 「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の教材では, 学習の流れと重点が, 分かりやすいフローチャートで示されている。(3年 p.106)</p> <p>・全学年ともに, 各単元の扉に自然を表した言葉とそれをイメージした写真を取り入れられている。(3年 p.13)</p>	<p>・読書生活の充実を図るために, 全学年とも文学と評論文の二作品を読書教材として紹介し, それに関連した推薦図書が表紙のカラー写真とともに示されている。また, ブックトーク等, さまざまな読書活動も紹介されている。 (3年 p.64 , p.154)</p> <p>・情報を分析・活用する力が身に付くように, 第3学年に『メディア社会を生きる』という説明文教材が取り入れられている。 (3年 p.40)</p>	<p>・判型はB5判である。図版や資料を多く示し, また, 余白を広くとるなど読みやすくなるよう工夫されている。</p> <p>・紙の色や挿絵は落ち着いた色調である。</p> <p>・言語感覚を磨くために, 全学年に, 『音読を楽しもう』という古典教材が教科書途中にカラー折り込みで掲載されている。 (3年 p.114)</p>
	<p>・各学年巻末の資料編の中に, 『日本文学の流れ』(第1・2学年), 『近・現代文学展望』(第3学年), 『文語文法活用表』(全学年)が掲載されている。文学史表は日本文学の他に外国文学や国語史も掲載されており, さまざまな視点から文学史をとらえることができるよう工夫されている。</p>				

選定に必要な資料

書 写 No.1

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
A	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年用は52ページ, 第2・3学年用は60ページである。 ・姿勢・用具の使い方・資料などが, 写真を用いて分かりやすく示されている。(1年 p.2) ・穂先の写真や朱墨などを用いて筆遣いの説明が分かりやすく示されている。(1年 p.7) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返って教材ごとに自己評価ができるように構成されている。(1年 p.7) ・適切な書式を示すなど, 手順や学習の進め方などが具体的に示されている。(1年 p.17) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターや絵画のサインなど生活に生きる手書き文字を写真で紹介し, 身の回りの文字に関心をもつように工夫されている。それと同時に, 文字を美しく書くことよさや大切さを理解させ, 日常の書写に生かすことができるよう工夫されている。(1年・見開きページ) ・学習内容に生徒の心向かせ, 目をひきつけさせるための工夫として, 説明に多くの色が使用されている。(1年 p.22) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」などに活用できるよう, 具体的な行事の例を通して, 書写を生かす学習活動が豊富に取り上げられている。(2・3年 p.34) ・世界の文字が紹介され, 国際理解への視点をもちながら, 書き文字の価値を考えられるように工夫されている。(1年:裏表紙見返し) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習する文字やポイントが, 目次と並べて示されており, また, 色分けにより学習の段階が表示され, 学習内容が一目で確認できるように工夫されている。(1年 p.1) ・第1学年用の漢字一覧表は, 毛筆体で表示されている。(1年・巻末折り込みページ)
<p>・『発展』として, 第1学年用では第2・3学年の内容を, 第2・3学年用では高等学校の内容が取り上げられている。(2・3年 p.45)</p>					
B	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年用は52ページ, 第2・3学年用は60ページである。 ・姿勢・用具の使い方・資料などが, 写真を用いて分かりやすく示されている。(1年・巻頭折り込み) ・穂先の写真や薄墨などを用いて筆遣いの説明が分かりやすく示されている。(2・3年 p.16) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年と第3学年の内容を分けて提示し, 前学年の学習内容の確認と応用を段階的に積み重ねた構成がとられている。(2・3年:目次) ・復習のために, 各学年の終わりに力だめしのページが設けられている。(1年 p.40) 	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕飾りや幟(のぼり)など生活に生きる手書き文字を写真で紹介し, 身の回りの文字に関心をもつように工夫されている。(1年・巻頭折り込み) ・目標の明確化や評価のポイントを押さえるための学習カードを紹介し, 学習への意欲を高めるよう工夫されている。(1年 p.6) ・各章の扉ページに, 詩歌や漢文の手書き文字が載せてあり, 文字の美しさがとらえられるよう工夫されている。(2・3年 p.7, p.13, p.29) ・古典の詩歌や漢文が数多く取り上げられており, 文字の歴史から書写学習がとらえられるよう工夫されている。(2・3年巻頭・巻末) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」などに活用できるよう, 手紙文の書き方や報告書などが取り上げられている。(1年 p.24) ・書写の伝統を意識させるために, 書体の歴史・書かれる物(紙等)の歴史が大きく取り扱われている。(2・3年:表紙見返し) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の教材文を生かした題材が多く取り上げられている。(2・3年 p.20) ・単元ごとに扉のページが設けられ, そこで学ぶことを示し, 学習への見通しや心構えをもてるよう工夫されている。(1年 p.15 など)
<p>・発展的な学習内容を示すマークを付して, 古典の臨書や連綿が取り上げられている。(2・3年 p.57)</p>					

選定に必要な資料

書 写 No.2

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
E	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年用は44ページ, 第2・3学年用は48ページである。 ・姿勢・用具の使い方・資料などが, 写真を用いて分かりやすく示されている。(1年・巻頭折り込み) ・説明の文字が大きめにされている。(1年 p.9) ・穂先の写真や薄墨などを用いて筆遣いの説明が示されたり, 漢字の筆順が丁寧に示されたりしている。(1年 p.15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・書写の基礎・基本の定着に重点をおいた構成にされている。 ・毛筆を重点においた構成にされている。(全巻共通) ・硬筆の横書きの教材では, 横付け紙で文字をそろえる方法や行頭のとり方を示すなど, 丁寧に扱われている。(1年 p.22) 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌碑や橋の名前など生活に生きる手書き文字を写真で紹介し, 身の回りの文字に関心をもつように工夫されている。(1年・巻頭折り込み) ・生徒の興味を引くように, 様々な筆記用具が書き文字と共に提示され, 適した筆記用具を考えさせるよう工夫されている。(2・3年 p.36) ・様々な手書き文字を巻頭に写真で紹介し, 美しい手書き文字には古くからのあこがれがあることに気づけるよう工夫されている。(1年・巻頭見開き) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータに手書き文字を取り込んで作品作りに生かす方法が紹介されている。(2・3年 p.38) ・「総合的な学習の時間」などに活用できるよう, 手紙文の書き方が取り上げられている。(1年 p.34) 	<ul style="list-style-type: none"> ・毛筆の手本ごとに, 古典作品の写真が添えられている。(1年 p.8)
<p>・『発展』として, 美術科・家庭科に関連する教材が取り入れられている。(2・3年 p.45)</p>					
F	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年用, 第2・3学年用ともに52ページである。 ・姿勢・用具の使い方・資料などが, 写真を用いて分かりやすく示されている。(1年 p.22) ・直接書き込みをするページが多い。(1年 p.4) ・穂先の写真や朱墨などを用いて筆遣いの説明が分かりやすく示されている。(2・3年 p.19) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習が, 「考える・話し合う・書く・確かめる」という流れで構成されている。(1年 p.1) ・毛筆教材が後半にまとめて掲載されている。(1年 p.26) ・行書の学習では, 速く書くことを意識させるために, 時間を設定して書く教材が取り入れられている。(1年 p.14) 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議録や色紙など生活の中で手書き文字を用いる場面を写真で紹介し, 身の回りの文字に関心をもつように工夫されている。(2・3年 p.14) ・よりよい字形を追究する意欲を喚起できるよう, 修正が必要な具体例が多く取り上げられている。(1年 p.7) ・手書き文字の詩を写真とともに載せることにより, 文字の美しさに気付くよう工夫されている。(1年・巻頭見開き) ・伝達のための文字であることが強調され, よりよい伝達のための書写学習であることに気づくよう工夫されている。(2・3年・巻頭見開き) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」などに活用できるよう, 手紙文の書き方が取り上げられている。(2・3年 p.13) ・世界の文字が紹介され, 国際理解への視点をもちながら, 書き文字の価値を考えられるよう工夫されている。(1年 p.52) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や生活の場面で活用できる様々な知識が, 資料編としてまとめられている。(2・3年 p.35)
<p>・『発展』として, 美術科に関連する教材が取り入れられている。(2・3年 p.52)</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

書 写 No.3

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
G	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年用は56ページ, 第2・3学年用は40ページである。 ・姿勢・用具の使い方・資料などが, 写真を用いて分かりやすく示されている。(1年 p.2) ・穂先の写真や薄墨などを用いて筆遣いの説明が分かりやすく示されている。(1年 p.7) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年は基本を重視し, 毛筆の教材が多く掲載されている。(1年 p.6) ・第2学年では個に合わせた毛筆学習ができるように, コースが選択できるような構成がされている。(2・3年 p.10) ・第3学年ではこれまでの学習を生活に生かすことができる教材に精選されている。(2・3年 p.23) 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木表示板や表札など生活に生きる手書き文字を写真で紹介し, 身の回りの文字に関心をもつように工夫されている。(2・3年: 表紙見返し) ・筆・紙・墨・硯の作り方を紹介し, 道具に対する愛着がわくようにし, 道具にも古くからの伝統があることに気づくよう工夫されている。(1年巻末 2・3年 p.22) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」などに活用できるよう, メモの取り方やレポートのまとめ方などが取り上げられている。(1年 p.24) ・世界の文字を紹介し, 国際理解への視点をもちながら, 書き文字の価値を考えられるよう工夫されている。(1年・表紙見返し) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の「話すこと・聞くこと」の活動と関連をもたせた教材が取り入れられている。(2・3年 p.4) ・漢字一覧表の文字が, 共通の形ごとに掲載されている。(1年 p.44)
<p>・『発展』として, 第3学年では連綿体の教材が取り上げられている。(2・3年: 裏表紙裏)</p>					
J	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年用, 第2・3学年用ともに56ページである。 ・姿勢・用具の使い方・資料などを, 写真を用いて分かりやすく示されている。(1年・巻頭折り込み) ・穂先の写真や薄墨などを用いて筆遣いの説明が分かりやすく示されている。(1年 p.28) 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項のまとめが繰り返し提示され, 基礎・基本の定着が図られるように構成されている。(2・3年 p.34) ・硬筆の教材が少ない。(1年 p.19) 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットや商店の品名など生活に生きる手書き文字を写真で紹介し, 身の回りの文字に関心をもつように工夫されている。(1年・裏表紙見返し) ・題材などを自分の興味・関心に合わせ, 主体的に選ぶ学習場面が豊富に取り上げられている。(2・3年 p.24) ・毛筆手本のページには注釈等を入れずに文字のみが書かれており, 文字そのもののよさが強調されている。(1年 p.11 など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」などに活用できるよう, 手紙文の書き方や会議メモなどが取り上げられている。(2・3年 p.28) ・書写の伝統を意識させるために, 筆記用具の歴史・書体の歴史・書かれる物(紙等)の歴史が大きく取り扱われている。(2・3年 表紙裏) 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字一覧表に, 楷書と行書が並べて掲載されている。(1年 p.45) ・学習内容を分かりやすくするために, 目次に教材が提示されている。(1年 p.2)
<p>・『発展』として行書と平仮名の調和(1年 P.42)や, 古典の臨書(2・3年 p.38)が取り上げられている。</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科（地理的分野 No. 1）

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
A	<ul style="list-style-type: none"> ・精選された内容で, 適切な分量, 程度となっている。 ・調べ学習を行う上で, 生徒に分かりやすい内容にするために, 『調査テーマを決めるには…』など学習を進めるためのポイントが示されている。 ・生徒が問題解決学習に取り組むやすいように, 発表形式の記述が取り入れられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理学習の学び方を身に付ける手がかりとして, 『自由研究』のページが組み込まれたり, 折り込み地図が充実されたりしている。 ・調べ学習をより生徒に定着させるために, 『学びの広場』が設定されている。 ・基礎・基本を定着させるために, p.32にあるように, 生徒が重要な語句を書き込むことができるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が関心をもって学習に取り組めるように, 『ためしてみよう』で具体的な学習課題や学習方法が提示されている。 ・生徒の興味・関心を呼び起こすために, p.39には, 『ロックンロール県庁所在地』という歌が掲載されている。 ・登場人物の吹き出しのことばが, 生徒の興味・関心を高めるように工夫されている。 ・鳥瞰図と地形図を見比べながら, 国や都道府県について考えることができるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・p.206に交通・通信の発達の抱える今日的課題を学習する『深めよう』が設けられ, より学習を深化させるように工夫されている。 ・身近な地域の調査に力を入れており, 具体的な調査活動につながるように『地理スキルアップ』が設定されている。 ・『自由研究』では, 身近な地域の特色を学習できる機会として, 山陰の古都津和野が取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちの発達段階を意識した親しみやすい教科書にするため, 『ピンマーク』などの記号を使ったり, 巻末に作業(切る)のページをおいたりするなどの工夫がされている。 ・調べる学習を重視しながらも, 基本的な事項が整理された記述となっている。
<p>・p.2・3のもくじに, 『六大陸が一つだって本当?』など5つの内容を取り上げて記述しており, 適切な分量である。発展的な学習内容は, 第3編『世界から見た日本の姿』に多く取り上げられている。</p>					
B	<ul style="list-style-type: none"> ・精選された内容で, 分量, 程度共によく配慮されている。 ・調べ学習に活用できるように, 巻末資料が充実されている。特に, 『産業とくらし』, 『社会とくらし』の資料は, 興味をもつことができるように, 生活の視点からまとめられている。 ・生徒が内容を理解しやすいように, 各ページに写真, 図表が多く配置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が取り組みやすいように, 『都道府県の調べ方』と, 『国の調べ方』について, 共通した四つの視点が示されている。 ・『地域を調べる』学習において, 『地形図の見方』をしっかり身に付けることができるように, 多くのページを使って詳しく記述されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に学習に取り組めるように, 調査の進め方や調査に必要な情報を示した, 『調べ方コーナー』が設けられている。 ・生徒が学習活動に取り組むやすいように, ノートのまとめ方が設けられている。 ・「ズームイン」には, 生徒が興味をもち調べてみたい気持ちになるような内容が盛り込まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題, 地域紛争などの世界における今日的課題を, より深く追究できるように, 『大きくジャンプ』のページで詳しく取り上げられている。 ・近年, 各地で起こっている大きな災害である地震を学習するために, 『ズームイン』では, 『わたしたちのくらしと地震』が取り上げられている。 ・p.143の地図に竹島の表記がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって親しみやすくするために, 巻頭のマンガ『地理の学習を始めよう』で, 地理学習の目的を示すとともに, マンガの登場人物と一緒に学習を進めて行くという形が貫かれている。 ・学んだことが身に付いたかどうかを生徒が自己評価できるように, 単元の終りに, 評価の観点を示した, 『学習を整理しよう』のページが設けられている。
<p>・興味・関心に応じて発展的な学習へ取り組めるように, 『大きくジャンプ』のページを設け, 『さまざまな図法』『人々の行動を図にあらわすと』などの6つの内容が記述されている。</p>					

選定に必要な資料

社会（地理的分野 No.2）

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
G	<ul style="list-style-type: none"> 資料が豊富で、見やすいように大きめの地図や写真が配置されている。 資料の脚注は、具体的なイメージを想起しやすいように、わかりやすい言葉で記述されている。また、理解しにくい語句は、『キーワードの解説』が巻末に資料として掲載されている。 内容が精選されており、地球、日本及び世界の各地域それぞれが、生徒にとって適切な分量となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が調べ学習を進めやすくするために、指導内容ごとに『やってみよう』という項目が設定されている。 『身近な地域を調べよう』の単元では、トレーシングペーパー資料を活用し、生徒の作業学習を通して、地形図の基礎・基本の定着が図られるよう工夫されている。 都道府県の学習では、知識・理解、資料の選択・活用技能等について、自己評価できるような項目が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理学習への意欲を高めるために、『地球儀ペーパークラフト』を作成する学習が設けられている。 生徒の主体的な学習を促すため、身近な内容を取り上げたり、インターネット利用のためのホームページアドレスや検索用語が紹介されたりしている。 「わたしのレポート」や「クローズアップ!地理」は、見開きの構成で生徒の印象に残るように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が資料を比較しながら学習する力を高めるために、適切な写真や資料が並べて配置されている。 身近な地域の調べ学習を進めやすくするために、調べ学習の進め方の例示やキャラクターの吹き出しで具体的な方法が示されている。 不法投棄など地球環境問題や食糧問題といった社会問題が写真や図表を用いて記述されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲を高めるため、巻頭に各国の『食べる』『着る』『祈り』にかかわる写真が掲載されている。 都道府県及び、世界の国を調べる学習では、3つ以上の事例が記述され、各地域の実態にあった、多様な学習が展開できるように工夫されている。
	<p>・生徒が主体的に調べ学習を行えるように『クローズアップ地理 発展』の項目の中に『大陸は移動する』など3つ資料が選択されている。</p>				
K	<ul style="list-style-type: none"> 地理的な見方や考え方を重視した内容になっており、分量も適切である。 記述されている内容を、生徒が視覚的に理解できるように、写真や地図や図表が効果的に用いられている。 漢字にルビが多くふられており、また脚注も語句の説明にとどまらず、事象についての説明もされており、生徒にとって分かりやすい記述にされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界全体の様子や日本全体の様子をとらえることができるように、本文の記述以外に巻頭の口絵やコラム、折り込み地図などで、多くの国や都道府県の事象が親しみやすく取り上げられている。 『2部』では、調べる手順や視点を例示することで、課題設定や考察の仕方、まとめ方を生徒が明確にして、調べ学習がスムーズに行われるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 『2部』では、取り上げられた地域の中学生がいる家庭の様子が、『3部』では世界の各気候帯の生活の様子が取り上げられるなど、生徒の興味・関心を高めるように工夫されている。 『調べ方』『調べ先』『地図帳』『p.○』というマークを手がかりに、生徒が主体的に調べ学習を行うことができるように工夫されている。 調査活動を行うとき、五感を働かせて調査することが図式的に明記されている。(p.41) 	<ul style="list-style-type: none"> p.212にあるように、松江の観光に関する内容が取り上げられ、生徒が身近に感じながら、第三次産業の学習を行うことができるように配慮されている。 p.51にあるように、統計資料をグラフ化する方法などを取り上げ、生徒の地理的な技能を高めるように工夫がされている。 p.58にあるように、地域的な特色をとらえる視点を組み合わせることによって、生徒が地理的事象を多面的に追究できるように工夫されている。 日本には竹島や尖閣諸島などの離島があることを、地図帳で調べる活動が示されている。(p.30) 	<ul style="list-style-type: none"> 『1部』～『3部』の冒頭 (p.5, p.40, p.131) では、各部で学習していく内容が大まかに示されており、生徒が見通しをもって学習を進めることができるように配慮されている。 調べ方や学び方が重視されており、生徒が学習の目的に応じて、教科書や地図帳の活用をはじめ様々な方法で主体的に学習を進めることができるように、『この教科書の使い方』(p.4)が示されている。
	<p>・『プラスα』『テーマ学習』という項目で、発展的に学習を進めていく方法やその内容が示されている。(p.99など11項目)</p>				

選定に必要な資料

社会科（地理的分野 No.3）

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
M	<ul style="list-style-type: none"> ・精選された内容で, 分量, 程度共に生徒の発達段階に適合し, 生徒にとって過重な負担にならないように配慮されている。 ・生徒が理解しやすいように, 写真, 図表, イラストが, 各ページに適度に配置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的に調べ学習が進められるように, 調査に役立つホームページのURLが, それぞれの該当ページに示されている。 ・地理的な見方, 考え方に広がりをもたせるように, 『都道府県調べ』, 『世界の国々調べ』では, それぞれ視点を示し, 生徒が学習を進めやすいように工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が課題意識をもって, 主体的に学習に取り組めるように, 各節の初めに『学習の課題』と, 『課題の追究』の仕方が示され, それぞれの課題を追究して行く形で本文が記述されている。 ・生徒の学習意欲を高めるように, 『日本の地図記号は世界で通用するか』などの興味深い事例を示した『見て・読んで・発見する地理』のページが設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日的課題を興味をもって追究できるように, 日本のエネルギー事情を, 公開されて話題となった映画と関連づけて取り上げるなどの工夫がされている。 ・生徒が調べ学習を進めやすいように, 『県の工業の調べかた』に, 調べ学習の視点が示されている。(p.84) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が親しみやすく学習を進めることができるように, マンガの登場人物が, 会話によって学習のまとめをする『学習を振り返って』のページが設けられている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心に応じて発展的な学習に取り組めるように, 『北方領土を地図の変遷から見る』などの内容を記述した『もっと知りたい』が設定されている。 				
P	<ul style="list-style-type: none"> ・分量, 内容ともに生徒の発達段階に適したものとなっている。 ・生徒が特徴を見つけやすいように彩色, 加工された資料が多く活用されている。 ・生徒が学習内容をより理解しやすいように『コラム』の欄が多く設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末ごとに『チャレンジしよう』, 『だいたいなことば』の項目を設定し, 生徒がより深く調べ学習を行えるように記述されている。 ・各学習後に『学習のまとめ』を設定し, 知識・理解についての定着が図れるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容ごとにキャラクターによって中心課題が明確に示され, 生徒の学習意欲が高まるように工夫されている。 ・生徒の調べ学習に対する興味・関心を高めるためにインターネットを活用して学習できる『チャレンジしよう, インターネットで大使館訪問』や巻末に『地理学習に役立つおもなホームページアドレス』が設定されている。 ・「みつめてみよう, わたしたちの地球」では, 生徒のイメージをもたせるのに役立てることができるように, 衛星写真が多く使われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『身近な地域』では, テーマの設定からレポートにまとめる段階まで細かいステップを踏んで生徒に分かりやすいように記述されている。 ・過疎化の問題では, 『島根県の過疎地域』を具体例として取り上げ, 生徒が自分たちの身近な問題としてとらえやすいよう配慮されている。 ・生徒が領土問題を身近な問題としてとらえ, 取り組みやすい学習となるように, 竹島を取り上げて詳細に記述されている。(p.43) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が世界の6つの州を具体的にイメージしやすくするため, 13ページにわたって, 写真や地図を交え, 説明が詳しく記述されている。 ・日本国内の自然, 産業では, 生徒が調べ学習をしやすいようにグラフなど具体的な例を挙げて記述されている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習へつながっていくように, 『さらに深める学習』が設定されている。 				

選定に必要な資料

社会科(歴史的分野 No.1)

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が理解しやすいように, 本文の量は適度であり, 使用されている語句も学年段階に適合している。 ・各時代の内容や特色をつかみやすいように, 写真や絵図が各ページごとに豊富に提示されている。 ・説明を要する重要語句については, 簡潔で分かりやすい注釈や写真が提示されている。また, 重要語句は太字表記されるとともに, その数も最小限にとどめられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の重要な内容や各時代の特色についてイメージをもちやすいように, ページの冒頭に資料が掲載されている。 ・生徒が学習課題を明確につかむために, 1時間ごとの学習課題がタイトルの下に表示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の追究意欲を喚起するよう, ページの冒頭や写真, 絵図にも, 人物キャラクターの吹き出しによって, 視覚に訴える課題提示がされている。 ・生徒の興味・関心を高めていけるよう, 世界からみた日本や時代背景をとらえることができる資料が随所に示されている。 ・『歴史にアクセス』は, 本文の内容に関連したもので, 生徒の興味・関心を高める工夫がされている。(p.17) 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域での学習を進めることができるように, 『地域の歴史を調べてみよう』では, 具体的なテーマや内容が紹介されている。(p.20) ・調べ学習を進める上で, 具体的な手法を学ぶことができるように, テーマ決定と資料探しの具体的方法やイラストマップの具体例, 歴史写真の見方, 地図の変化のとりえ方等が『スキルアップ』として 21 項目挙げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レイアウト, 色使い, 資料・教材の精選, 文章の量や読みやすさ等においてバランスがとられている。 ・歴史的事象を多面的・多角的に考察できるよう, 生徒に分かりやすい資料が掲載されている。 ・生徒がより深く学べるよう, 歴史にみられる文化交流や国際関係, 各時代における社会の動きや人々の生活の様子が紹介された『深めよう』と題した学習ページが掲載されている。(p.44)

B	<ul style="list-style-type: none"> ・内容, 程度, 分量ともに, 学年段階に即している。 ・本文の内容にふさわしい写真やグラフなどの資料が豊富に掲載されている。 ・説明が必要な語句については, 分かりやすい表現で欄外に注釈が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の様子や国の移り変わりを理解しやすいように, 小単元の冒頭に『地図で見る歴史の動き』が配置されている。 ・単元の学習を大きな時代の流れの中で理解しやすいように, 年表, 地図を盛り込んだ『学習を整理しよう』が配置されている。(p.46, p.77, p.118, p.170, p.208, p.232) ・近代民主主義の成立過程を理解する上で重要な市民革命や産業革命等の適切な解説がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心を高めるために, 巻頭から人気アニメのキャラクターやカラフルな資料が適切に配置されている。 ・生徒の主体的な学習が喚起されるように, 一つの歴史事象に対してもさまざまな立場や考え方が比較して掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に合わせた取組ができるよう, 調査の仕方を紹介しながら, 身近な地域の歴史学習に役立つ『身近な歴史にアプローチ』が盛り込まれている。(p.42, p.43) ・近現代史を学習する上で生徒が深く追究しやすいように, 現代の大きな課題である世界平和に関する教材が多く掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な思考, 判断を育てるために, 調べ学習を進める上で必要な手法を紹介した『時代の移り変わりを調べよう』が掲載されている。 ・時代の流れを大きく理解するために, 巻末に全体を通した年表が配置されている。 ・一人ひとりの能力や興味に応じた調査学習ができるように『歴史を掘り下げる』や『チャレンジ学習』が掲載されている。

なし					

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科 (歴史的分野 No. 2)

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
G	<ul style="list-style-type: none"> ・内容, 程度, 分量ともに, 中学生の発達段階に即している。表現の仕方も分かりやすく工夫されている。 ・全体を通して, 1時間の授業内容が理解しやすいように, 写真や絵等の資料が効果的にレイアウトされている。 ・重要語句については, 分かりやすい表現で欄外に注釈が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広く歴史にふれられるように, 冒頭にアジアの世界遺産の写真や地図が掲載されている。 ・単元の学習内容をアジアや世界的な大きな時代の流れの中で理解できるように, 年表を盛り込んだ『学習のまとめ』が配置されている。(p.64) ・ヨーロッパの中世から近世にかけての記述内容が精選されており, 日本の中世に重点がおかれた構成となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して, 生徒が興味・関心をもって当時の社会の様子を理解しやすいように, 写真や絵等の資料が効果的にレイアウトされている。 ・生徒が歴史に親しむことができるように, 随所にキャラクターを配置し, 基礎的な疑問を提示する等の工夫がなされている。 ・現代に残る史跡の写真や当時を映画化したものから引用した写真を多く取り入れ, 身近なものと感じられるように工夫されている。(p.65～p.70) 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的に調べ学習ができるように, 第1章の『身近な物から歴史を探そう』において, 調査学習についての基本的な方法やポスター作成の手順が示されている。 ・時代ごとに地域の特色ある建物や人物にスポットをあてた調査学習が進められるように, 『ご近所調査隊』が掲載されている。(p.16) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にカラフルな資料がバランスよく配置されている。 ・1時間の授業で学習する内容が端的に理解できるように, 大きな文字で短いタイトルが配置されている。 ・一人ひとりの関心や能力に応じた調査学習ができるように, 『ひとびと探検隊』や『ワールドチャレンジャー』が掲載されている。大きな写真や絵画資料を題材として本文の学習内容の深化が図られるように配慮されており, 分量も適切である。
I	<ul style="list-style-type: none"> ・内容, 程度, 分量ともに, 中学生の発達段階に即している。 ・全体を通してカラフルな写真や絵等の資料が効果的にレイアウトされている。 ・学習を深める上で, 重要な語句などについて, 欄外の注釈で詳しく解説されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査学習の基本的な方法を理解できるように, 冒頭に『歴史上の人物のポスターを作ろう』が掲載されている。 ・近現代の日本について, 地理的分野や公民的分野の内容と関連させながら学習することができるように, 詳しく解説されている。 ・ヨーロッパ中世から近世にかけての記述内容が精選され, 一方で日本の中世の内容が多く記述されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に生徒の興味・関心を高めるために, 当時の様子を表すカラフルで大きな写真や絵等の資料が随所に配置されている。 ・生徒が興味・関心をもって学習することができるように, キャラクターによって, 1時間の学習内容が分かりやすく説明されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習をスムーズに行うために, 『身近な地域を調べよう』を3段階で配置し, 古地図や郷土資料館の利用, フィールドワークといった具体的な手法が紹介されている。(p.92, p.93) ・今日的な課題である国際平和構築に向けての姿勢や態度を育てるために, 第二次世界大戦にかかわる手記や体験記など多くの資料が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代の生活の様子を効果的に理解できるように, 巻末に衣食住に焦点をあてたカラフルな絵画資料である『生活の歴史』が掲載されている。 ・一人ひとりの関心や能力に応じた調査学習が展開できるように, 『深める歴史』や『歴史のとびら』が随所に配置されている。古代文明や宗教の題材などをもとに, 本文の学習内容が深められるように配慮されており, 分量も適切である。
	なし				
	なし				

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科 (歴史的分野 No. 3)

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
K	<ul style="list-style-type: none"> ・内容, 程度, 量ともに適切である。語句の注釈は, 必要最低限におさえられており, その分説明付きの写真, 絵図, 資料等が豊富に提示されている。 ・本文の内容にふさわしい写真や資料が豊富に提示されている。特に人物に関する資料が多く示されている。 ・学習内容をより多角的にとらえることができるように, 国際, 地域史, 環境, 思想・宗教の四つのテーマに分けられたコラムが掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の視点をとらえやすくするために, タイトルの中に時代のイメージやキーワードが盛り込まれている。 ・問題解決学習を効果的に進めたり, 人物調べ学習への意欲を喚起したりするために, 要所に「人物の考え」「人物の話」が盛り込まれている。(p.116) ・各章の冒頭には, 『展示室』があり, 調べ学習に役立つインターネットアドレスが提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心を高めるように, 小单元ごとに『タイムスリップ』として見開きの大きな想像図や問いかげが掲載されその時代にいるような感覚で学習できるように工夫されている。(p.146) ・カラー資料や写真, カラーグラフなど多彩なレイアウトで生徒が興味・関心をもつように配慮されている。また, 生徒の興味・関心を高める資料が精選されて掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より主体的に調べ学習を進めていくことができるように調査場所の例, 調査内容の例を具体的に示した『地域調査に出かけよう』が掲載されている。(p.84) ・地域調査のまとめをしていく上で, 資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し, 表現方法の参考になるような様々なまとめの例が示されている。 ・歴史的事象に対する理解や, 資料活用能力や表現する能力がより高められるよう『テーマでまとめたページ』が設けられている。 p.224 ②「日本の戦後の国境」の地図に竹島が記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の隅々までに色鮮やかな写真や絵, 資料が豊富に盛り込まれ, 全体的に鮮やかな配色で生徒の目を引くようなレイアウトで構成されている。(p.43) ・歴史的事象のとらえ方が, それぞれの国や人々によって違いがあることを理解できるように, 様々な立場からの資料が多く示されている。 ・1時間の学習内容の最後の部分に『やってみよう』という課題が設定されており, 個に応じて学習課題が追究できるようにされている。
なし					
M	<ul style="list-style-type: none"> ・内容, 程度, 量ともに適切であり, 説明を必要とする重要語句には, 簡潔でわかりやすい注釈や写真資料が提示されている。 ・全体的に歴史的事象が本文によって詳しく解説されており, 効果的に配置された写真や資料によって理解を深める工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代の国の移り変わりを日本全体を見渡しながら, 理解できるように, 巻頭に古代から近代にいたる日本地図が掲載されている。 ・小单元のまとめとして, 年表, 地図を盛り込んだ『学習のまとめと課題』が配置されており, その単元の学習を大きな時代の流れの中で理解しながら基礎・基本の定着が図られるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『見て・感じて・つかむ歴史』の中で, 視覚的に生徒の興味・関心を高めるために, 当時の様子を表す写真や絵画資料が大きく配置されている。(p.58) ・生徒の興味・関心を喚起するために, 全体を通してカラフルで大きく印刷された資料が配置されている。 ・比較できる写真を2つ提示し様々な視点から興味をもてるように工夫されている。(p.32) 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の歴史学習に役立つ『身近な市や町から』が盛り込まれ, 調査の仕方を紹介しながら, 生徒の発達段階に合わせた取組が行えるような配慮がなされている。(p.24) ・地域学習を行うための導入として活用できるように, 巻末に日本全国の史跡を紹介した『身近な地域の史跡をたずねよう』が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『女性と子どもの歴史』や沖縄, 北海道の歴史を明記することによって, さまざまな角度から人権意識を育てる工夫がされている。 ・教科書の中ほどに縦書き四分割された『折り込み年表』が配置され, 朝鮮や中国, 西洋とのかかわりの中で時代の流れを大きく理解できるように配慮されている。 ・『もっと知りたい』や『タイムトラベル』といった見開きのページが配置され, 大きな写真や絵画による資料が豊富に掲載されている。(p.74)
なし					

選定に必要な資料

社会科(歴史的分野 No. 4)

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
O	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料が掲載されるとともに, 歴史的事象が詳しく説明されており, 文字量が多くなっている。 ・生徒の理解を高めるため, 写真資料などには, 詳しい説明がされている。 ・内容をとらえにくい文章や語句については, 注釈で分かりやすく説明されている。また, 注釈のうち, 本文の文章や語句に関連する内容について詳しく説明されているものもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・p.72にあるように, 本文の学習に関連した調べ学習が主体的にできるよう, 各単元に『人物コラム』が設けられている。 ・学習する内容が, 歴史全体の流れのどの部分であるか分かるように, 各章の冒頭にもものさし付きの年表が提示されている。 ・学習課題を明確につかむために1時間ごとの学習課題がタイトルの下に表示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心を高め, 主体的な学習につながるように要所に『読み物コラム』『人物コラム』『歴史の名場面』が設置されている。 ・生徒が本文の学習内容を主体的に深めていけるよう, 1時間の学習の終末に『やってみよう』『考えてみよう』に, 具体的な課題が示されている。 ・人物の写真や肖像画を多く取り入れ, その時代を生きた人々に関心をもてるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に地域学習を進めることができるよう, 序章に課題学習として『事物の起源調べ-身近な地域を調べてみよう』が設置され, 調査方法やまとめの方法が示されている。 ・各章には具体的な課題学習の実践が掲載され, 特に遺跡調べ, 文化遺産調べ等, 地域学習に役立つ例が記されている。 ・島根の地域学習について, 興味・関心が高まるように荒神谷遺跡出土品や出雲の神話について提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文に歴史的事象や史実が, 詳細にわたって記述されている。 ・詳細な内容に踏み込んだ資料が随所に掲載されている。 ・既習の歴史的事象を歴史の中で振り返ることができるように, 各章末に政治・経済と文化的な出来事を分けて整理する『章のまとめ』のページが設けられている。 ・p.60にあるように, 『課題学習』は, その単元の発展的な学習で, 個に応じた調査学習が展開できるように工夫されている。
	なし				
P	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に本文の記述や語句を説明した注釈が多く, 詳しく説明されている。 ・重要語句は太字表記されている。多くの語句が太字表記されている。細かい歴史的事象まで学習することができる。 ・各時代の内容や特色を理解しやすくするために, 本文の内容に適した資料や写真が各ページに掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の写真や資料はコンパクトかつシンプルに提示されている。 ・隣接する時代の政治史や文化史を同時に学習し, 比較することにより文化の特色や時代の背景の特色を効果的に学習できるよう配列されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が興味・関心をもつように, 大単元の冒頭に大きな写真資料のページを設け視覚的に時代の特徴をつかませるよう工夫されている。(p.128～p.131) ・学習課題をつかみやすいように, 1時間で学ぶ内容ごとに時代の特徴を示したタイトルがイラストを使って提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・序章に『歴史の流れと地域の歴史』が設定されており, テーマの決定, 資料探しの方法やまとめ方の具体的な方法が紹介されている。資料の活用方法や表現の力を高め, 思考力を高めるための工夫がされている。 ・身近な地域で生徒が進んで調べ学習に取り組めるよう, 各章のはじめには, 地名や石碑などを使った調べ学習の具体例が取り上げられている。また, 調査の際の課題も示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の記述を多くし, 必要な写真や資料を整然と配置されている。文字の配置や色使い等においては全体的に派手さをおさえとてもシンプルである。 ・本文の学習とあわせて利用できるように, 巻末に3ページ分の年表が付けられている。 ・『さらに深める学習』が, 各章末で取り上げられている。各時代の特徴的な歴史的事象についてより一層学習を深めていけるように, 詳しい文章や写真資料が掲載されている。
	なし				

選定に必要な資料

社会科（歴史的分野 No.5）

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料が掲載されるとともに, 歴史的事象が詳しく説明されており, 文字量が多くなっている。 ・生徒の理解を高めるため, 写真資料などには, 詳しい説明がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・p.88 にあるように, 「歴史の豆辞典」として, その章の重要語句がまとめてあり, 整理して学習ができるようにされている。 ・学習する内容が, 歴史全体の流れのどの部分であるか分かるように, p.187 の「内閣の移り変わり」などの表に整理して提示されている。 ・学習課題を明確につかむために1時間ごとの学習課題がタイトルの下に表示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学習の最初の方には生徒が親しみを感じるようなイラスト(想像図)を載せられている。 ・実物の印象や雰囲気を伝える写真を多く取り入れ, 文化遺産に興味・関心をもてるように工夫されている。 ・「歴史のこの人」「歴史へゴー」などで, その時代を生きた人々に関心をもてるように工夫されている。(p.18, p.61 など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・序章「歴史を調べる」では, 生徒が主体的に調べ学習を進めることができるよう, 調査方法やまとめの方法が示されている。 ・p.195 のマクマリーと幣原喜重郎の見解など, 異なる立場から歴史的事象を捉えることができるように工夫されている。 ・島根の地域学習について, 興味・関心が高まるように出雲大社「空中神殿の謎」などが提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文に歴史的事象や史実が, 詳細にわたって記述されている。 ・詳細な内容に踏み込んだ資料が随所に掲載されている。 ・既習の歴史的事象を歴史の中で振り返ることができるように, 『歴史の豆辞典』のページが設けられている。 ・大きく鮮明な写真が随所に掲載されている。
	なし				

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科（公民的分野 No.1）

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
A	<ul style="list-style-type: none"> ・本文が平易な表現で簡潔にまとめられている。 ・学習内容を視覚的に印象づけるように, 大きな写真や資料が配置されている。 ・『現代の民主政治とこれからの社会』の単元に多くのページ数をあてている。 ・環境問題について, 他の題材と関連させながら考えられるよう, 多くのページをあてている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を確認するため, 各章の最後に自己評価の項目が設定されている。 ・『国際問題と地球市民』の項目では, 『もし世界が 100 人の村だったら』が取り上げられ, 国際問題や地球市民を身近にとらえさせるよう工夫されている。 ・生徒の思考を促すために, 資料を比較したり, 書き込んだりする欄が設けられている。 ・p.17 にあるように, 『スキル・アップ』の中で, インターネットの活用などが取り上げられており, 学び方や調べ方を学習する配慮がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲が高まるように, 単元の初めに作業的な学習や未来の家族を考えるシミュレーションが取り入れられている。 ・印象的な表情の人物の写真や資料を掲載し, それに対して登場人物が解説を加えたり, 課題を提示したりするなど, 生徒の心情に働きかけて興味・関心を高める工夫がされている。 ・p.33 にあるように, 生徒が興味をもって学習できるように, 本文を補足する内容が『一口エピソード』として, 記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・p.155 の図には, 竹島・尖閣諸島・北方領土を取り上げ, 日本固有の領土とし, 国の領域の範囲が示されている。 ・地方自治の学習で『市町村合併』を取り上げ, 地域調査の具体例が掲載されている。 ・各章末に『深めよう』として, 『司法制度改革』『パレスチナ問題』など, 今日的な課題が取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・難解な語句については, 巻末に用語解説が掲載されている。 ・参考資料の『日本国憲法』の欄外に, 語句の解説が記載されている。
<p>・『遺伝子診断』『アメリカの民主政治』『国際貿易』『未来への課題』を発展的学習内容とし, それぞれ第2章人権学習, 第3章政治学習, 第4章経済学習, 第5章国際社会の学習の章末で, 『発展』のページとして記載されている。</p>					
B	<ul style="list-style-type: none"> ・図表などの資料が大きく, 本文も平易な表現で簡潔にまとめられている。 ・詳細な脚注が随所に記載されている。 ・章ごとに色づかいが統一されており, 学習内容のまとまりが把握しやすくされている。 ・学習内容を分かりやすくするため, 小見出しが簡潔に提示されている。 ・グラフや表が多く使用されており, 社会的事象を視覚的にとらえられるような工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図るために, 章末に学習をまとめるためのページが設定されている。 ・巻頭に, 調べ方の視点を整理し, 見開き 4 ページで資料を提示するなど, 調べ学習の仕方がまとめられている。 ・取り上げた事象に対して異なる立場からの意見を並記するなど, 思考や判断を高める構成にされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有名なアニメのキャラクターによって, 写真の見方や課題が印象的に示され, 学習に親しみをもって取り組めるように工夫されている。 ・p.43 『やってみよう』として, 8つの具体的な作業や体験が示されており, 主体的な学習意欲を高める場面が設定されている。 ・テーマごとに課題が明示され, 各項目の終わりに発展的な課題が示されており, 追究の意欲を喚起する構成にされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・p.159 では, 『定まらない領土と国境』と題したコラムの中で, 北方領土・竹島・尖閣諸島を取り上げ, 同ページの地図中にその位置が明記されている。 ・随所に新聞記事を掲載し, 身近な資料の活用を促す工夫がされている。 ・『環境』『株価』『国際協力』について, 身近な生活と関係づけ, 調べる活動が設定されている。 ・p.167 では, 現代の日本を取りまく国際問題の一つとして, 拉致問題が取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を深化させるために, 『ズーム・イン』で, 『ネット社会とつきあうために』『児童の権利条約』『15 歳のハローワーク』『国民年金』『世界遺産』など 14 種類の題材が取り上げられている。 ・p.46 には, バリアフリー社会を考えるきっかけとして, 点字の実物が掲載されている。
<p>・『生命科学の発達と人権』『なぜ為替相場は変化する?』『現代の宗教と政治』などを発展的学習内容とし, 『大きくジャンプ』のページとして記載されている。</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科（公民的分野 No. 2）

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
G	<ul style="list-style-type: none"> ・写真やグラフが豊富で、扱っても大きく、レイアウトや色使いも視覚に訴えるように工夫されている。 ・脚注と本文の語句のつながりが、分かりやすく表記されている。 ・本文の文字ポイントが大きく、文字間も広くとられており、読みやすい工夫がされている。 ・全体のページ数が少なく、内容が厳選されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図るため、章末ごとに、テスト形式の学習のまとめが設定されている。 ・学習した内容をさらに調べたり、他の資料と比較したりする活動が、『やってみよう』として設定されている。 ・各章の章末に『社会を見る』というタイトルで、調べ学習やディベートなどの学習方法が紹介されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストを豊富に使い、視覚的な場面設定がされており、課題追究の意欲を高めるような工夫がされている。 ・イラストや写真には、同世代の子どもたちが多く登場しており、生徒が親しみをもって取り組むことができるように工夫されている。 ・ページの冒頭に、問いかける形で課題提示がなされ、生徒の課題追究の意欲を高める工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的分野の学習をふまえ、p.139にあるように、戦後補償に対する政府の立場と、補償を求める人々の動きが記述されている。 ・各章の章末に『社会を知る』というタイトルで、年金制度や北朝鮮による拉致問題など、今日的な話題が取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙の裏に点字や複数の言語による防災マップが掲載されている。 ・学習資料編に掲載されている日本国憲法には語句の解説が付き、生徒の理解を助ける工夫がされている。また、大日本帝国憲法の条文との比較対照がしやすくなっている。
<p>・『「国会」の語源から歴史が見える』『「小さな政府」と「大きな政府」』『「民族」ってなんだろう』というテーマで、高等学校の内容が『発展』として、ページ内コラムで取り上げられている。</p>					
K	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を大きく4部構成とし、『私たちの民主政治』の単元に多くのページ数をあてて詳しく述べられている。 ・写真、グラフ、イラストが豊富で大きく、特に、第1部第1章では、ページの半分以上を占めている。 ・p.27に見られるように、本文に出てこない重要な語句については、『さらにもう一歩』で解説が加えられている。 ・基礎・基本の定着を図るため、本文の内容が厳選されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に社会的事象をとらえることができるよう、例えば、ある人物が国会議員になり、法律を制定するまでの流れを追体験できるような工夫がされている。 ・p.41に見られるように、本文に関連したコラム『いまを見る目』で、現代の新しい動きをとらえやすいよう工夫されている。 ・『やってみよう』のページで、調べ学習の方法を学ぶコーナーが設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国の予算を決めたり、選挙ゲームをしたりするなど、社会的な事象を疑似体験し、身近なこととして学習できるような場面が設定されている。 ・イラストを多く取り入れて視覚に訴えたり、ストーリー仕立ての資料や、変化のある紙面の構成にしたりするなどにより、関心・意欲を高めるための工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国連や、日本の国際協力の動きと、カンボジアの現代の歴史とを関連させ、地理、歴史、公民の三分野を融合した構成にされている。 ・アジアの国々とのかかわりを多く取り上げることで、アジアの中の日本という意識を感じさせる編集にされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治単元より経済単元を先に学習する構成にされている。 ・変化をみたり、比較したりする資料が多く掲載されている。 ・『深めよう』『立ち止まって考えよう』などの特集ページを設け、より高い内容を追究できるような工夫がされている。
なし					

選定に必要な資料

社会科(公民的分野 No. 3)

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
M	<ul style="list-style-type: none"> ・本文が簡潔に記述されていたり, 図表や資料が多く使われたりするなど, 社会的事象を具体的に理解できるよう工夫されている。 ・キャラクターやイラストを用い, グラフの色を鮮明にして, 見やすくなるよう工夫されている。 ・図表や資料について, 分かりやすく説明され, 理解しやすいよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図るため, 学習整理のページが章末に設定されている。 ・課題を明確にして学習を進めるために, 複数の課題を示した『課題の追究』が, 各節ごとに設けられている。 ・調べ学習の進め方, まとめ方, 発表の仕方について, 特設ページを設け詳しく記述されている。 ・学習を深めるため, 内容に関連した, ホームページのアドレスが提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長を視覚的にとらえることができるように, 交通の発達を写真や図などを用いて表し, 関心を高める工夫がされている。 ・学習のイメージをもつことができるように, 章ごとに口絵が大きく取り上げられている。 ・自分で調べることができるように, p.22では, インターネットによる資料収集の仕方を身に付ける学習コーナーが設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権の視点から, 『拉致問題』や『身体障害者補助犬法』など, 今日的課題が扱われている。 ・学習を深めるために, 規制緩和や郵政民営化などについて, 身近な例を調べる課題が提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の憲法条文を脚注により整理し, 内容を理解しやすくなっている。 ・写真や図表, 本文がバランスよく配置され, 見やすいレイアウトにされている。 ・単元の終末に, 調べ活動や, 追究を深めることができるよう, 『「食べもの」は工業製品?』『外国為替相場とわたしたちの生活』などについて取り上げられている。
O	<ul style="list-style-type: none"> ・『現代の民主政治とこれからの社会』の単元に多くのページ数があてられている。 ・資料の図表の領域は上部にまとめられ, 本文領域との区分けが統一されている。 ・本文の説明が詳細になされ, 一つの事象に対して, さまざまな立場からの考え方が紹介されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図るために, 各章の最後に『学習のまとめ』が掲載されている。 ・第4章として『世界平和と人類の福祉の増大』の内容を独立させている。 ・日本国憲法の特徴を明らかにするために, ドイツなど外国の憲法の内容が掲載されている。 ・市場価格の理解を深めるため, 価格の動きが顕著に表れている『みかんの入荷量と価格』が資料として扱われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を追究する意欲を高めるよう, イラスト, グラフ, 表を効果的に用いられている。また, p.32のように, 課題解決型の学習テーマが, クイズ形式やロールプレイ形式で提示されている。 ・事象を主体的・多面的にとらえることができるように, ディベートの活動が6ページにわたって示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭グラビアで, 『わが国の周辺の問題』として, 北方領土, 尖閣諸島, 竹島, 拉致問題などの写真が掲載されている。 ・学習したことが実生活に生かされるように, 学習課題として, ゴミの分別方法が取り上げられている。 ・p.128では, 本文と資料図で, 領土問題を抱えている3つの地域が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治単元より経済単元を先に学習する構成になっている。 ・学習を深めるため, 『日本の国際貢献を調べてみよう』『日本文化を見つめ直そう』など, 『課題学習』のページが適宜設定されている。
	なし				
	なし				

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科（公民的分野 No. 4）

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
P	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や図表に対して, 本文の記述の量や紙面が多くとられている。 ・平等権の学習で, 『フィンランドの男女平等法』を取り上げ, 理解を深めることができるように, 外国と比較する資料が多く掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図るために, 『公民豆事典』の作成を行う課題が提示されている。 (p.134) ・p.36には日本の二国間ODAの地域配分の推移についてグラフを作成する教材が取り上げられ, 技能・表現の向上が図られるように工夫されている。 ・思考や表現にかかわる学習を効果的に進めるために, 『考えてみよう』『話し合ってみよう』『まとめてみよう』というタイトルで, 適宜課題が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学習を生み出すため, 『調べてみよう』というタイトルで, 適宜課題が設定されている。 ・各章の初めの部分に, その章で学習する内容に関連する写真をまとめて掲載し, 生徒の興味や関心を喚起する工夫がされている。 ・見開きページの本文左上に, そこで学習する課題が示され, 主体的な学習につながるような工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的分野の学習をふまえ, 現代の日本のあゆみを裏表紙の内側に見開きで掲載されている。 ・身近な人や地域とのつながりを深めるために, 『聞いてみよう』というタイトルで, 適宜課題が設定されている。 ・『車いすとブラインド・ウォーク』など, 総合的な学習の時間との関連を図ることができる体験的な学習の手順や留意点が具体的に示されている。 ・日米関係の現状理解を深めるため, 『沖縄にあるおもな米軍基地』の分布図が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の構成が, 中学校学習指導要領社会科の内容配列順序と同じ順序でされている。 ・『100円ショップから世界経済をみる』といった『さらに深める学習』のページが適宜設定されている。
	なし				

選 定 に 必 要 な 資 料

地 図 No.1

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
A	<ul style="list-style-type: none"> ・調査学習を多面的に行うことができるように, 都道府県の産業などの特色をあらわした資料が豊富に掲載されている。 ・公民的分野でも活用できるように, 世界と日本とを比較した資料や日本の都道府県を比較した資料がわかりやすく分類されている。 ・検索しやすいように, 巻末にある『さくいん』の文字が大きく記されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の特色をより具体的にとらえることができるように, 地図中に世界や日本の歴史にかかわる内容や世界遺産, ラムサール条約登録地が数多く表記されている。 ・日本列島をより多面的に理解できるように, 日本地図の周囲に衛星画像や江戸時代の日本地図が配置されている。 ・地球環境などの今日的な課題に対応できるように, 地球温暖化や酸性雨など豊富な資料が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が地図に親しみやすいように, アメリカ合衆国におけるプロスポーツの本拠地などが取り上げられている。 ・日本の首都を視覚的に理解できるように, 東京都の中心部がイラストで描かれている。 ・生徒が各都道府県の特徴を興味深く学ぶことができるように, 『お国じまん』が取り上げられている。 ・デジタル鳥かん図や写真資料に関連したイラストを掲載するなど, 生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時代による変化を読み取ったりに, 各地域を比べたりできるように, 例えば中国地方における高速道路の変化などの資料が数多く掲載されている。 ・島根県については, 荒神谷遺跡と石見銀山遺跡が歴史地名としてわかりやすく記されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の事前学習でも活用できるように, 東京や京都, 奈良の中心部が拡大され, 主要な建築物などがイラストで描かれている。
<p>・指導のねらいに応じて活用できるように, 例えば人口などについては, 人口分布, 老年人口の割合, 小学校の分布図など, 一つの事象に対して, 様々な角度から視点をあてた内容の資料が多く掲載されている。</p>					
K	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の高さと利用のし方を関連づけて考えることができるように, 同じような地域が2通りの描き方で表現されている。 ・衣食住などの生活文化や自然環境にかかわる写真が多く掲載されている。 ・イラストで描かれた鳥かん図も随所に配置され, その地域の様子が大きかにとらえられるよう配慮されている。 ・生徒が課題意識をもって学習を進めることができるように, 『地図をみる目』という着眼点が数多く示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が地図帳の使い方に慣れるように, 巻頭で地図帳の使い方や地図帳を用いた都道府県の調べ方などが掲載されている。 ・歴史的分野でも活用できるように, 各地域の歴史の変遷の資料が掲載されている。 ・より多角的な視点で日本列島を捉えることができるように, ユーラシア大陸から見た日本地図が掲載されている。 ・世界の各地域と日本とのかかわりに気づかせることができるように, 『日本との結びつき』という資料が随所に見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が地図に親しめるように, 地図中に各地域の特色である建築物, 特産物などがイラストで掲載されている。 ・生徒が関心をもって, 地域の特色を理解できるように, 各地の料理などの写真が豊富に掲載されている。 ・ドイツ国内におけるワールドカップの開催地をサッカーボールで示すなど, 興味を高める工夫がされている。 ・『リンク』という表記を使って, 地図と資料を関連付けることで, 生徒の地理的な見方や考え方の基礎を培う工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多面的に日本の各地域の特色を理解できるように, 祭りや方言, 郷土料理といった日本の生活文化についての資料が掲載されている。 ・島根県については, 荒神谷遺跡や石見銀山遺跡のほか, 後鳥羽上皇配流地や松江城が歴史地名としてわかりやすく記されている。 ・巻末の日本の都道府県地図において, 竹島の名称の記載がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の事前学習でも活用できるように, 東京や京都, 奈良の中心部が拡大され, 主要な建築物などがイラストで描かれている。 ・比較対照しやすいように, 人口や面積などについて, 特徴的な国が色分けされている。
<p>・例えば『どの都府県の面積と合わせると北海道と同じになるか, p.135の統計資料で確認しよう。』など, 『考えてみよう』や『やってみよう』という課題が随所に設定されており, 生徒が自ら学習できるような配慮がなされている。</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

数 学 No.1

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
A	<ul style="list-style-type: none"> ・基本からやや高度な問題まで難易度の幅が広く設定しており, 分量も適当である。 ・図表やきれいな写真, カットなどが多く掲載され, 理解を助けるような配慮が随所に見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『例』の問題とほぼ同程度の『たしかめ』の問題を配置し, 基礎・基本が定着するような構成の工夫がみられる。 ・第3学年の単元で, 「平方根」の後に「式の計算」の学習をする構成にされている。 ・公式のまとめが巻末に設定しており使いやすくされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年ともパラパラ漫画を取り入れ, 図形の変化が視覚的にとらえやすいように工夫されている。 ・クイズ的な問題やスポーツに関連した問題が多く設定しており, 生徒の興味・関心が高まるよう配慮されている。 ・『さくいん』にカットが入っており, 復習しやすくされている。 ・図や立体の美しさを感じさせる色使いや紙面の整理がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年 p.128にあるように, 作図の手順の説明が丁寧にされている。 ・図形の色使いや公式のまとめが見やすく工夫されている。 ・第1学年 p.133にあるように, 教科書を操作的な活動にも使えるよう配慮されている。 ・福祉に関連した課題等, 今日的な課題の追究にかかわる学習が各学年で扱われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心をひくような導入問題や書き込み式の問題が多く用意されていて, 生徒が楽しく学習できるように構成されている。 ・『発展ページ』, 『復習問題ページ』などのページ帯が色分けしてあり見やすくされている。
<p>・発展教材が単元末や巻末に数多く取り入れられ, 理解しやすいように紙面を十分に使って説明されている。</p>					
B	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の確実な定着をめざした問題と難易度の高い問題とが, それぞれ豊富な問題数で構成されている。 ・第1学年の p.14や p.40では, 数直線が載っており, 生徒の加法や減法における思考を支援するよう工夫されている。 ・例題の右横に記載されている『確認メモ』を参考にすることで, 生徒の学習を支援するよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『計算問題』や『練習問題』では, 参照する学習内容にフィードバックできるよう工夫されている。 ・『練習問題』で生徒が自分の理解の状況を確認した後, 基本的な内容の『ふりかえろう』, やや難易度の高い『とりくんでみよう』を習熟度に応じて選択し, 学習できるよう工夫されている。 ・第3学年の因数分解の学習では, 因数分解を学習した後, 素因数分解を学習する構成にされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1, 3学年の巻末付録を利用して, 操作的な活動ができ, 生徒の興味・関心を高める工夫がされている。 ・各単元の導入部分や練習問題に, 身近な内容や環境問題にかかわる題材が用いられ, 生徒の興味・関心を高める工夫がされている。 ・『練習問題』や『章のたしかめ』では, 各問題に評価の観点が見出し, 生徒の自己評価に役立つよう工夫されている。 ・問題と生活をつなぐ写真や地図が多く用いられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年の p.21にある『計算の基礎練習問題』は, 多様な使い方ができる効果的な教材である。 ・第1学年の p.135では, 対称な形の例として島根県章が扱われている。 ・章末の『生活と数学』では, 数学と実生活を強く結びつけた題材が扱われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見やすいレイアウトであり, 写真や図を効果的に使いながら, 日常的で身近な題材が扱われており, 生徒の興味・関心を高める工夫がされている。 ・基礎・基本の定着をめざす問題から難易度の高い問題まで幅広い問題のレベルと量が用意されている。
<p>・章末に発展的学習内容がマークで示され, 生徒が課題を見付け, 問題を解決する力を身に付けるよう工夫がされている。</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

数 学 No. 2

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
C	<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題が多数用意されており, 計算技能が身に付くよう工夫されている。 ・章末には, 基本的な内容の問題や, 比較的難しい問題が適当な分量で用意されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの学習内容が見開きの2ページにまとめてあり, 生徒が学習しやすいよう工夫されている。 ・学習内容を深め, 広げるきっかけとなる話題や問題が各ページに記載されている。 ・各ページの右側に余白を多く設け, メモを書き込めるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年の巻末に切り取り式のパラパラ漫画が準備されており, 操作的な活動ができるようにされている。 ・第3学年の p.83にあるように有名スポーツ選手の写真などを載せ, 生徒の興味・関心をひく工夫がされている。 ・巻末に数学史へのロマンを感じさせる付録が付けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活にかかわる事象や, 建物などの写真や図を使って問題が提示されている。 ・巻末の『数学の森』では, 数学史に加えて, 環境問題などの身のまわりの事象に関連づけた題材が豊富に用意されており充実している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の導入部分が簡潔に記載されている。 ・第3学年の巻末にある『中学校数学のまとめ』では, 3年間の各領域の総合問題がまとめられている。
<p>・各単元末の『もっと数学!』では, 発展教材を取り入れ, 理解しやすいように紙面を十分に使った説明がされている。</p>					
E	<ul style="list-style-type: none"> ・問題が精選されており, 前学年の復習問題が充実されている。 ・きれいな色づかいで, 写真やカット絵が豊富に盛り込まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・章末の『まとめと問題』は『問題A』と『問題B』で構成されており, 『問題A』は, 評価の観点を示すことで, 生徒が自己診断できるよう工夫されている。 ・第2学年の p.20にあるように「等式の変形」の後に「比の性質」の学習事項が設定されており, 斬新である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工作用紙が巻末に綴じこまれていて, 操作的な活動に応用でき, 生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。 ・ゲームのページを設け, 意欲的に計算の技能を高めていけるよう配慮されている。 ・各単元とも『ふりかえろう』と『深めよう』を設定し, 生徒が自主的に学習できるよう工夫されている。 ・錯視や美しいしきつめの写真を用い, 数学の不思議さを感じさせるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年の p.165『自由研究のページ』のなかで, 環境問題等, 今日的な課題の追究にかかわる学習が取り扱われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章が敬体で書かれている。 ・第1学年の p.6の『算数から数学へ』や, 同 p.182の『小学校の計算』にあるように, 小学校から中学校の学習にスムーズに接続できるよう工夫されている。
<p>・各学年とも『深めよう』の中に『発展』と明示し, 発展教材が数多く取り入れられ, 理解しやすいよう紙面を十分に使って説明されている。また, 第3学年では, 『自由研究のページ』の中にも位置づけられている。</p>					

選定に必要な資料

数 学 No. 3

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
G	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標が矢印で示されており, 生徒が課題意識をもって授業に臨むことができるよう工夫されている。 ・計算の手順がわかるように図や注釈で示されている。また, 途中の計算も段階に応じて丁寧に記述されており, 生徒にとって理解しやすいよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各章の『学習のまとめ』では, 重要項目が簡潔にまとめられており, 学習のふり返りや基礎・基本の定着度が自己診断できるよう工夫されている。 ・いずれの学年も, 図形分野では, 図形がくっきり浮き出るよう効果的な配色がされている。また, 1年 p.37 に見られるように, 『注意・参考・確認』の欄も学習を進める上で有効な表記がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習を進めることができるように, 導入部分では実生活に関連した題材を多く活用されている。 ・『数学ミニ辞典』(1年 p.126) では, 学習内容に関連した数学情報が記載され, また, 『チャレンジコーナー』では, 学習した内容を使って解決できる問題が用意されるなど, 数学への興味・関心を高める工夫がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『自由研究』では, 実生活で起こる現象を数学的に解決させる課題が多く用意されている。 ・巻末には, 図形及び数式の重要項目が見開きにまとめられており, 実用性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を確かめる問題から発展的な問題まで網羅されている。また, 重要な内容もまとめて記載されており実用的である。 ・生徒の日常生活にかかわりのある場面のイラストや写真を活用し, 数学の身近さを感じさせる配慮がされている。
<p>・授業で学習したことをさらに発展させるために『自由研究』の中で『発展』と明示し, 生徒の理解及び関心に応じて活用できるよう工夫されている。</p>					
L	<ul style="list-style-type: none"> ・『問』や『基本のたしかめ』では, 基礎的・基本的な問題が多く設定しており, 基礎・基本が重視されている。 ・より数学の有用性が感じられるよう, 導入部分では実生活と離れた問題, やや難しい問題が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各章末の『基本のたしかめ』では, 既習事項にフィードバックできるよう参照ページが明記されている。 ・項目や公式, 問題によって, 字の大きさ, 太さ, 色使いが工夫されていて, 見やすく構成されている。 ・図形の証明では, 仮定, 結論, その他, と色分けしており, 生徒が理解しやすいように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やや難しい『例題』では, 作業内容や考え方などヒントが提示しており, 生徒の意欲を高めるよう工夫されている。 ・『みつけた! 数学』では, 生徒が感心するような身近な物や題材が取り扱われている。 ・1年 p.22 に見られるように, 『数学の展望台』では, 身近な内容や用語の由来, 数学の歴史の話題を取り上げ, 興味・関心を高めるよう工夫されている。 ・巻末の付録が, 操作を通して新しい性質などを自分で見つけられるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組み立てて楽しめ, 活用して数学の楽しさが味わえるような付録が, 巻末に用意されている。 ・『例』では, 学習内容が明記されており, 生徒がチェックしやすいよう工夫されている。 ・グラフの大きさや形がほぼ一定で見やすい, また, 教科書にかき込めるものもあり, 実用的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも, 1年間の学習を振り返るページが設けられている。 ・全体的に印字が濃く, アルファベットが大きく見やすくされている。
<p>・巻末の『生活と数学のお話』『もっと知りたい』の中に, 『発展』と明示し, 既習事項を利用して発展的に考えていく課題が設定されている。</p>					

選定に必要な資料

理科(第1分野 No.1)

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
A	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的でわかりやすい内容にするために, 多くの写真や図が大きく掲載されている。 ・実験・観察の方法について, 手順がゴシック体で示してあり, 見やすい。 ・単元のまとめでは, 写真, 図を豊富に使い, 生徒の理解を深める工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験器具の取扱い方法が折り込みのページに写真や図を使って示され, どの単元の学習においても活用しやすいよう工夫されている。 ・本文中や章末の問題の中に『リンクマーク』で関連箇所を示し, 反復学習が容易にできるように構成されている。 ・上 p.113, p.117 に見られるように, 生徒が図の中に配線図を書き込めるようになっており, 電流計や電圧計のつなぎ方を確認できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小單元ごとに関連した発展的な実験の紹介やコラムを配置し, 生徒の学習意欲を喚起する工夫が見られる。 ・生徒の興味・関心を引き出すために, 『トライ』で身近なものを利用した簡単な実験が紹介されている。 ・単元の最初に身近な事象を写真等で示すことにより, 生徒が興味・関心をもちやすくする工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上巻の最初に『探究の足跡』として研究者の実際の研究過程を紹介し, 生徒の自由研究への取り組み方, レポート作成の手法等探究の方法が実例に併せてわかりやすく解説されている。 ・身近な自然現象や最先端の科学技術について『科学のとびら』の中で取り上げ, 学習している内容と関連づけが図られている。 ・下 p.79 では, 還元の学習にあわせ, 県内のたたら製鉄が紹介されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な見方や考え方を習得することができるように課題や実験の手順が明確に示されている。 ・実験・観察においては結果やまとめが裏面のページに配され, 生徒が自分で考察できるように工夫されている。 ・豊富な写真や視覚的にわかりやすいイラスト, グラフなどを用いて, 考察していく手順が示されており, 科学的な見方・考え方を習得することができるように編集されている。
<p>・『発展』と明示され, 上 p.42 に見られるように水圧と浮力の関係について学習内容が大きく紙面を割いて詳しく紹介されており, 生徒が興味や関心を高めながら学習内容を深めていくことができるように配慮されている。</p>					
C	<ul style="list-style-type: none"> ・学習する上で参考になることや理解を深めていく内容が、『資料』としてきめ細かく取り入れられている。 ・上 p.33, p.34 にあるように, 実験結果をグラフ化して考察する手法を重視し, 生徒の理解が深まるよう工夫されている。 ・下 p.26, p.27 のように生徒が理解しにくいと思われる内容は, 大きな文字や図を使い丁寧に解説されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上 p.34, p.77 の『ポイント』のように, グラフの書き方や読み方が分かりやすく説明されている。 ・生徒が実験後のレポートを作成する際, 参考となるように記入例が手書きの文字で示されており, それぞれの項目に解説が加えられている。 ・小單元ごとに, 自主的に復習できるよう『確かめよう』が設けてあり, 内容に関連するページも示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活やオリンピックなどの写真を用いたり, 巻頭で宇宙や大自然と科学の調和が迫力ある大写真で扱われたりしており, 生徒の興味・関心を引き出すよう工夫されている。 ・単元の導入や章末にクロスワードパズル等のクイズやイラスト等を配し, 生徒が楽しく学習できる配慮がなされている。 ・下 p.62 のようにロケット上昇についての解説を写真を多く用い, 生徒が興味・関心をもつよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験手順が大きな区切りと見出しで書かれており, メリハリをつけ, 分かりやすくされている。 ・それぞれの実験において, 考察の手がかりとなるように『実験結果から考えてみよう』の項目が設けられている。 ・下 p.48, p.49 のように学習する内容と身の回りの現象との関連がイラストで示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明をしながら学習を進めていく博士のイラストが立体的に描かれており, 生徒が科学に親しみをもてるよう工夫されている。 ・自由研究のページ数が多く, 内容も充実している。 ・上 p.64 の誤差についての説明のように, 生徒が考察する上で助けになる工夫がされている。
<p>・『発展』で, 上 p.43 に見られるように視点の違う二つの話題を取り上げ, 生徒の思考の広がりをもつことに重点を置いた読み物資料が紹介されている。</p>					

選定に必要な資料

理科(第1分野 No.2)

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
E	<ul style="list-style-type: none"> ・上 p.26 にあるように, 脚注ではできるだけ具体的な数値を示し, 科学的な根拠を表すよう工夫されている。 ・本文の説明や解説が詳しく書かれ, 学習内容を深めている。 ・『科学の窓』や『科学メモ』が途中に挿入されている。日常生活にかかわることから科学史に至るまで興味深い内容であり, 学習内容の理解を深めていく上で役に立つよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきた内容と, これから学習する内容のつながりが端的に表されている。また, その単元の課題が示しており, 学習の流れがつかみやすいよう工夫されている。 ・実験において, 手順と実験内容, 考察がそれぞれ分けてまとめられている。 ・単元末のチェックリストによって学習への興味や関心についての自己評価が行えるよう工夫されている。 ・脚注が本文の左右に設けられており, 見やすくされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上 p.9 のように実験後に『Let's try』で方法を変えた実験を紹介することにより, 生徒の関心・意欲がさらに高まるよう工夫されている。 ・体験を通して感性を高めることができるように, 『チャレンジ』で生徒がすぐにでもできるような実験が身近な素材を用いて紹介されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に『観察・実験の手引き』, 巻末に『実験を安全に進めるために』が配置される等, 実験を進めていく場合の基本的な事柄が重視されている。 ・各地の自然や施設など, その地域の特徴的な写真が記載され, 学習内容に関連させて扱われている。 ・ガスバーナーの使い方ではマッチの扱い方が示されており, 現在の子どもの実態に即して記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・奇数ページの上段に見出しを配し, いま学習している段階が一目でわかるように色分けされている。 ・学習内容を把握しやすいように, 各章の最初に学習課題が写真を用いてわかりやすく示されている。
<p>・『発展』で, 上 p.8 に見られるように反射の学習の後に乱反射を取り上げるなど, 学習内容に関連した読み物資料が多く紹介されている。</p>					
G	<ul style="list-style-type: none"> ・写真・図表等はほぼ同じ大きさで配置され, 簡潔な文章でまとめられている。 ・ポイントとなる知識や公式などが本文中に緑の色地で強調して示され, 基礎・基本を定着させるための工夫がされている。 ・脚注や図の解説の中で, 生徒が混乱したり戸惑ったりしやすいポイントについての説明がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の学習課題が明確に示されており, それを解決するための実験や考察がすぐ後に配されている。 ・単元ごとに学習内容をまとめ, 補充問題を通して内容を深めていくよう工夫されている。 ・実験の目的が明確で理解しやすくなっており, 操作の手順を示した小見出しで, 確認しながら観察・実験に臨めるよう構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元前に, 見開き2ページに写真やイラストを示し, 生徒が興味・関心をもって学習に取り組める導入が工夫されている。 ・生徒の疑問点を解決するため, キャラクターの吹き出し等を利用して疑問点の整理をしたり既習事項の確認をしたり, 見通しをもった学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・生徒の興味・関心を喚起するため, 実験コーナー『やってみよう』が設けられている。 ・臨場感のある写真資料により, 自らの体験と重なりがもてるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『ハローサイエンス』で日常の科学, 環境とのかかわり, 科学史, コンピュータの利用などを取りあげ, 生活に密着した日常の科学について説明しながら学習を進める工夫がされている。 ・上巻の最初に『研究の進め方の例』を示し, 探究的な理科学習の進め方を具体的な研究例とともに説明されている。また, 次に『安全に調べるために』を設けることで, 安全面にも充分配慮する工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな文字とゆとりのある行間により, 全体的に見やすい構成にされている。 ・科学で数値の単位と関わりのある科学史上の人物を多く取りあげて説明されている。 ・『考えてみよう』という項目を設け, 基礎的・基本的知識・理解の定着が図られている。 ・単元末問題が精選されている。
<p>・『発展』で, 上 p.27 や p.48 に見られるようにフックの法則や計算公式などが簡潔に紹介されている。</p>					

選定に必要な資料

理科（第1分野 No.3）

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
L	<ul style="list-style-type: none"> ・紙面サイズが大きく見やすい。本文の理解を助ける図や写真などが本文横で大きく扱われ, 効果的にレイアウトされている。 ・学習内容に関連する図の番号が本文中に記入され, 参照しやすくされている。 ・本文が平易な文章で分かりやすく丁寧に記述され, 基礎的・基本的な知識・理解を定着させるための工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての実験で方法, 結果, 考察という探究的な学習過程が明示されている。 ・章末の『基本のチェック』では, チェックリストや関連する部分のページを示すなど, 基礎 ・基本が定着するよう工夫されている。 ・生徒が実験後のレポートを作成する際参考となるように、『わたしのレポート』では記入例を示し, 解説が加えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上 p.13 にあるように, キャラクターの吹き出しや写真, イラスト等を効果的に配置しながら, 生徒の興味・関心を喚起する工夫がされている。 ・実験後に設けられている『しっかり知りたい』を紹介することによって, さらに生徒の関心 ・意欲が高まるよう工夫されている。 ・子どもたちの興味・関心を引きつけるために『QUIZ』が設けられている。(上 p.10 など) ・『きみも科学者』により, 科学と人間生活とのかかわりの素晴らしさに気づくよう工夫されている。(上 p.131, 下 p.115) 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにとって身近な学習になるように、『科学の広場』で最新の科学の話題を取り上げたり, 子どもたちの生活に密着した話題や環境を教材として取り上げたりしている。 ・身近な科学や環境問題が豊富に選ばれているが, 写真は厳選されている。また、『はたらく人に聞いてみよう』ではインタビュー形式で地域の実例が紹介されている。 ・上 p.143 にあるように実験を正しく安全に進めるためのチェックリストが示されている。 下 p.93 では, 還元の学習にあわせ, 県内のたたら製鉄が紹介されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の思考や判断を大切にするために、『予想してみよう』『思い出してみよう』『考えてみよう』という3つの柱を基本に学習の流れが構成してある。 ・学習内容のポイントが赤字で記載されており, 付属の赤いシートで覆い繰り返し学習できるよう工夫されている。
<p>・単元末で『もっと知りたい』として, 大きく紙面を割いて実験例が記載されている。</p>					

選定に必要な資料

理科（第2分野 No.1）

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
A	<p>・全体を通して生物や自然現象の写真, 立体感のあるイラストを随所に取り入れ, 生徒が理解しやすいよう工夫されている。 (上 p.96, p.120, 下 p.98)</p> <p>・文章と図の比率が適切である。また, 文章は簡潔に表現されていて, 読みにくい語句や地名の多くに振り仮名が付けられている。 (上 p.74, 下 p.24)</p>	<p>・各節末に『問い』, 各単元末に『学習内容の整理』等が設けてあり, 基礎的・基本的事項が確実に定着するよう配慮されていたり, 問題が分からない時の参照ページが示されていたりしている。 (上 p.19, p.42)</p> <p>・観察・実験の欄では, 手順を示したり, 別法も示して学校の実態に合わせて実施したりできるよう配慮されている。 (上 p.25)</p>	<p>・『トライ』や『自由研究』では, 身近な素材や事象を取り上げ主体的な取組を促すように工夫されている。(上 p.105, 上 p.131)</p> <p>・MRI 写真, CG 等を取り入れ, 興味・関心を高める工夫がなされている。(上 p.4)</p> <p>・『科学のとびら』では, 学習事項と日常生活とを結び付けて考える感性を高めるよう工夫されている。(上 p.80)</p>	<p>・地球規模での環境保全について考えられるように見開きで図解する等, 工夫されている。(下 p.5)</p> <p>・『科学のとびら』では, ヒトの誕生が取り上げられ生命尊重の意識が高まるように配慮されている。(下 p.49)</p> <p>・地域の事例として浜田市の礫岩の地層 (上 p.74), 松江城の石垣 (上 p.76) がとりあげられている。</p>	<p>・巻末の自由研究での事例が多く, また検索のキーワードや関連した内容のページが示されていて, 検索しやすいように工夫されている。(上 p.132, 下 p.126)</p>
<p>-----『発展』として旧中学校学習指導要領から削除された『日本の天気』(下 p.23), 『遺伝の法則』(下 p.51), 『進化』(上 p.124) などの他, かなり専門的な内容である『DNA』(下 p.53), 『太陽系の果て』(下 p.87) などの読み物資料が各單元ごとに取り上げられている。</p>					
C	<p>・全体を通してレポートやスケッチの例, 記録やデータ処理の具体例などが多く取り入れられ生徒の表現力の育成に配慮されている。 (上 p.32, p.33, p.59, 下 p.12)</p>	<p>・各節末に『確かめよう』, 各単元末に『まとめ』『章末問題』が設けられており, 思考力を深める内容が取り入れられている。また, 巻末には問題の解答があり, 学習内容を自己評価できるように配慮されている。(上 p.49, p.141)</p> <p>・蒸散の学習では, 植物の体内での水の行方を探究していく問題解決的な構成にされている。(上 p.29)</p>	<p>・科学史が多く紹介され, 興味・関心を高めるよう配慮されている。(下 p.89, p.138)</p> <p>・『やってみよう』や巻末の『自由研究』では, 別の方法や発展的内容を紹介し, 主体的な取組を促すよう工夫されている。(上 p.31, p.134)</p> <p>・『資料』の多くが生活と絡めてまとめられており, 感性を高めるよう工夫されている。(上 p.28, 下 p.102)</p>	<p>・『自然と人間』の單元では, 身近な地域の自然環境調査を取り入れられている。(下 p.94)</p> <p>また, 地球温暖化やオゾン層破壊などの環境問題を取り上げ, 環境保全について積極的に考えさせようとしてされている。(下 p.108)</p> <p>・ヒトの受精と子宮内の胎児の写真を單元扉に使用し, 生命尊重の意識を高める配慮がなされている。(下 p.37)</p>	<p>・索引は, 上下巻に共通した項目をとりあげ, 該当巻に載っている事項が太字で示されている。</p>
<p>-----『発展』として, 旧中学校学習指導要領から削除された『日本の天気』(下 p.29) などの他, 専門的な内容である『クローン動物』(下 p.54) などの読み物資料が各單元ごとに取り上げられている。</p>					

選定に必要な資料

理科（第2分野 No.2）

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
E	<p>・各単元の導入で既習事項とその単元での学習内容が示されている。(下 p.97) また, 本文中に『思い出してみよう』のマークで既習事項が示されている。(下 p.99)</p> <p>・中学校初めての単元『植物たちの世界』に多くのページを当て, 顕微鏡などの基本操作やレポートのまとめ方などがていねいに解説されている。</p>	<p>・学習の節目に『学習の確認』『学習のまとめ』『自己評価と問題』が設けてあり, 基礎的・基本的事項や観察・実験への取組が自己評価できるよう工夫されている。(上 p.42)</p> <p>・観察・実験の欄では, 手順や準備物を明確に示しわかりやすい。また, 『Let's try』『チャレンジ』により, 別の実験材料や試料, 発展的内容が紹介されている。(上 p.13)</p>	<p>・『自由研究』では, 身近な素材や地域の調査を取り上げ, 主体的な取組を促すように工夫されている。(下 p.126)</p> <p>・各単元の導入では, 見開きの2ページにして学習内容が紹介されている。</p> <p>・『科学の窓』では, 科学史や先端技術だけでなく, 日常生活とのつながりを紹介する等, 感性を高める工夫がされている。(上 p.37, p.107)</p>	<p>・『地球とともに生きる』の単元では, 身近な地域の防災対策や生活用水の確保などについての調査を取り入れ, 自然と日常生活のかかわりについて積極的に考えさせるよう配慮されている。(下 p.122)</p> <p>・地域の自然に興味をもたせるように, 日本各地の特別天然記念物を取り上げられており, 大根島の溶岩ずい道も紹介されている。(下巻末)</p>	<p>・巻末資料1のようにインターネットによるデジタル教材(理科ねっとわーく)の活用例を取り上げたり(上 p.135), 『科学メモ』のようにホームページアドレスを示し(下 p.122), パソコンの積極的利用を促したりする等の工夫がされている。</p>
<p>・『発展』として, 旧中学校学習指導要領から削除された『無せきつい動物』(上 p.124), 『せきつい動物の進化』(上 p.126), 『日本の天気』(下 p.28), 『遺伝の規則性』(下 p.52), 『火星の見え方』(下 p.88) などかなり詳しく専門性が高い読み物資料が取り上げられている。</p>					
G	<p>・『生物と地球環境』の単元に多くのページを当て, 大気の調査(下 p.118), 水生生物の調査(下 p.120), 酸性雨の調査(下 p.123)など自然環境を直接調べる活動が取り入れられている。</p>	<p>・各単元末に, 『学習のまとめ』『補充問題』が設けてあり, 基礎的・基本的事項が確実に定着するよう配慮されている。(上 p.42, p.43)</p> <p>・各単元の導入では見開きのページを用いて大きな写真を掲載したり, 『大地のつくりとその変化』では東京の古代ゾウの化石(上 p.48)を紹介したりする等工夫が見られる。</p>	<p>・巻末に星座早見作成シートがあり, 自作した星座早見を使ってさそり座の動きを調べるように工夫されている。(下 p.75)</p> <p>・『ハローサイエンス』では科学史や環境問題が紹介されたり(上 p.41), 各章末にある『チャレンジ』においては, 地域の「人・もの・こと」の活用が図られたりしている。(上 p.89, 下 p.139)</p> <p>・楽しく学習できるように, 豊かな表情のキャラクターが用いられている。(上 p.7)</p>	<p>・ヒトの受精, 胎児と赤ちゃんの写真を単元扉に使用することで, 生命尊重の意識を高められるよう配慮されている。(下 p.35)</p> <p>・豊かな日本の自然を次の世代に残すように, 各地の国立公園が巻末に紹介されている。</p>	<p>・パソコン利用の学習を進められるように『やってみよう』でシミュレーションソフトやインターネットの利用が紹介されている。(下 p.27, p.88, p.124)</p> <p>・索引は, 上下巻に共通して使用できるように工夫されており, 該当巻の掲載事項は太字にされている。</p>
<p>・『発展』として, 旧中学校学習指導要領から削除された『種子をつくらぬ植物のなかま』(上 p.37), 『メンデルの遺伝の実験』(下 p.57) や, 専門的な内容である『大陸移動説』(上 p.84) などが読み物資料として取り上げられている。</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

理科（第2分野 No.3）

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
L	<ul style="list-style-type: none"> ・横広のサイズと折り込みを生かしたイラストや写真, CG が豊富に取り入れられている。(上 p.2, p.50) ・上巻の序章では文字サイズを大きくして, 中学校の学習に徐々になじめるよう配慮されている。 ・脚注が詳しく記載されており, 読みにくい語句や地名には振り仮名も付けられている。(上 p.80) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元末の『単元のまとめ』では, 付属の赤色シートを使うことで語句の確認ができるように工夫されている。また, 巻末には『力だめし』問題の解答と解説があり, 観点別の評価ができるよう配慮されている。(上 p.23, p.45) ・各単元の導入で学習内容を明確にするために, 見開きのページを使い, 単元のねらいがわかりやすいよう構成されている。(下 p.60) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心によって調べる方法を選択したり(上 p.29), 『きみも科学者』(上 p.135) では, 研究の進め方やレポート例, テーマ例を示したりして, 主体的な学習ができるよう工夫されている。 ・『はたらく人に聞いてみよう』『科学の広場』では, 先端技術や学習事項が日常生活と絡めて紹介されている。(上 p.127, 下 p.30) 	<ul style="list-style-type: none"> ・『はたらく人に聞いてみよう』では, 科学技術が社会に貢献していることを理解するとともに, キャリア教育と連携が図られるよう配慮されている。(上 p.127) ・受精後の胎児の成長と赤ちゃん誕生の写真を単元の導入部に使用することで, 生命尊重の意識が高まるよう配慮されている。(下 p.36) 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末資料では, インターネットを利用して知りたい情報の収集や研究成果の発表を発信する方法が紹介されている。(上 p.147)
	<p>・『もっと知りたい』として, 旧中学校学習指導要領から削除された『種子をつくらない植物のなかま』(上 p.44), 『進化論の島「ガラパゴス諸島」』(上 p.132), 『日本の天気』(下 p.30) 等の読み物資料が取り上げられている。</p>				

選定に必要な資料

音楽科（一般 No.1）

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
G	<p>・各学年の目標と内容を踏まえ, 精選された教材によって必要な範囲の内容が十分に扱われている。</p> <p>・鑑賞教材において視覚的に内容をとらえることができるように, 資料が見開き3ページにわたって掲載されている。</p>	<p>・すべての学年において, 統一された4つのテーマのもとに教材が精選され配置されている。また, それぞれの教材において学習のポイントが明示され, 学習が深化・発展するよう配慮されている。</p> <p>・歌唱教材においてアフリカや南米・東欧・アジアなど世界の音楽が偏りなく取り上げられている。</p> <p>・鑑賞教材では, 1曲を通した簡略譜が掲載されている教材があり, 学習を深化・発展させる上で効果的である。</p>	<p>・『Let's Try!』という特設ページが設けられ, 生徒の興味・関心を喚起するとともに, 自主的・主体的に自由な発想で学習活動を行うことができるよう工夫されている。(1年 p.34)</p> <p>・『Let's Sing!』という特設ページが設けられ, 発声のメカニズムについて簡潔にわかりやすく解説され, 練習方法も提示されている。(第1学年用 p.6)</p> <p>・全体を通して, イメージが広がる豊富な写真や資料(楽譜)が効果的に掲載されている。</p>	<p>・各学年に民族音楽や日本音楽の教材が取り上げられ, 暮らしの中ではぐくまれた様々な音楽にふれ, 多様な文化や歴史の学習ができるよう工夫されている。</p> <p>・幅広い音楽活動を可能にするため, 我が国及び諸外国の楽曲が時代・地域・ジャンルなど多岐にわたって取り上げられ, 生涯にわたって音楽に親しもうとする気持ちを育てることができるよう配慮されている。</p>	<p>・見返し及び口絵ページに『音楽はメッセージ』と題して作曲者・演奏者の言葉と写真が掲載され, 生徒の学習意欲を高める上で効果的である。</p> <p>・歌唱教材の世界の民謡には原語の歌詞及びその発音が明示されており, 発展的な学習につなぐことができるよう工夫されている。</p>
<p>・第1学年用及び第2・3学年用上では『発展』と題して, 第1学年『音と振動』, 第2・3学年上『トガトンのつくり方』『倍音のしくみ』が取り上げられている。</p>					
H	<p>・各学年の目標と内容を踏まえ, 精選された教材によって必要な範囲の内容が十分に扱われている。</p> <p>・いずれの学年においても混声合唱の教材が数多く取り上げられ, 各校の実態に応じて選択することができるように工夫されている。</p>	<p>・教科書の全体構成は, 各学年とも表現と鑑賞の領域が明確に区分され, それぞれの教材では学習のポイントが明示されることで, 学習内容が深化・発展するように配慮されている。</p> <p>・『音楽学習MAP』を示し, 各学校の実態に応じた学習指導計画が立てやすいように配慮されている。(目次ページ)</p> <p>・合唱教材『ふるさと』は, 各学年で扱われ, 変声期を考慮し混声2部から4部合唱まで段階的に編成され, 系統的・発展的な配列となるよう配慮されている。</p> <p>・鑑賞教材の音楽史上の位置づけが明示されている。</p>	<p>・第1学年用 p.8にあるように基礎的な内容をゲーム感覚で楽しみながら学習することができるように工夫されている。</p> <p>・歌唱や鑑賞の活動と密着させながら基礎的・基本的な学習活動が進められるコラム(『歌声セミナー』『合唱セミナー』『音楽研究室』)が適切に配置されている。(1年 p.6)</p> <p>・「作詞者の言葉」や「作曲者の言葉」や印象的な演奏場面の写真などの資料が豊富に掲載されていることが, 学習意欲を喚起し, 音楽的な感性を揺さぶる一助となっている。</p>	<p>・幅広い音楽活動を可能にするため, 我が国及び諸外国の楽曲が時代・地域・ジャンルなど多岐にわたって取り上げられ, 生涯にわたって音楽に親しもうとする気持ちを育てることができるよう配慮されている。</p> <p>・第2・3学年用上 p.46に『安来節』がイラスト入りで大きく掲載され, 郷土の民謡を意識して学ぶことができるよう工夫されている。</p>	<p>・口絵として『音楽リズム』と題し, 生徒の学習意欲を高める上で効果的なページが配置されている。</p> <p>・全学年で『Step up』と題して, 生徒の学習活動を深化・発展させる内容が取り上げられている。(第1学年用 p.17)</p> <p>・西洋の作曲家及びその作品の一覧表が掲載され, 生徒が興味・関心をもって発展的な学習活動を展開できるよう工夫されている。</p>
<p>なし</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

音楽科（器楽No.1）

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
G	<ul style="list-style-type: none"> ・各楽器の学習において, 系統的・発展的に展開できるように配慮されている。 ・『楽器の基礎』の中で打楽器が取り上げられ, 幅広い音楽活動を行う工夫がなされている。 ・リコーダーアンサンブルの楽曲が数多く取り上げられ, 学校や生徒の実態に応じて選曲できるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目次には, 合奏曲の難易度が3段階に分けて示され, 学校や生徒の実態に応じて選曲できるよう配慮されている。 ・リコーダー・ギター・打楽器については, 基本的な奏法が習得できるよう構成されている。 ・和楽器については, 箏・三味線・篠笛・和太鼓・尺八の5種類が取り上げられ, 楽器の歴史を含む基礎的な知識と基本的な奏法が習得できるように構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各楽器の導入段階においては, 平易で親しみのある教材が取り上げられ, 音楽を楽しみながら技術の習得・向上が図れるよう工夫されている。 ・クラシックやポピュラーの幅広いジャンルから教材が取り上げられ, 生徒の実態に応じて, 基礎的・基本的事項の理解や習得ができるよう工夫されている。 ・中学生にふさわしい多様な教材を通して, 音楽に対する感性を豊かに育むように配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの運指表, ギターのコード表が大きくわかりやすく表示され, 指導や学習に役立つばかりでなく, 授業以外の場面でも活用しやすいようにまとめられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルトリコーダーの基礎練習曲にコードネームが示され, 他の楽器とのアンサンブルができるよう配慮されている。
	なし				
H	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生にふさわしい多様な教材を通して, 音楽に対する感性を豊かにするように配慮されている。 ・各楽器の学習において, 系統的・発展的に展開できるように配慮されている。 ・アルトリコーダーの基礎的・基本的な学習に多くのページが充てられている。 ・教材がグレード別・編成別に配置され, 各学校の実態に即して選択できるように配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『楽器ガイド』と題し, その楽器の歴史や特徴についての知識が習得できるよう構成されている。 ・アルトリコーダーの基礎練習曲が数多く掲載され, 系統的ステップにより無理なく技能の定着が図れるよう工夫されている。 ・和楽器については, 和太鼓・箏・三味線・篠笛・尺八の5種類が取り上げられ, 楽器についての基礎的な知識と基本的な奏法が習得できるよう構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各楽器の導入段階においては, 印象的な写真が用いられ, 生徒の興味・関心を高める上で効果的である。 ・アルトリコーダーの基礎練習曲は, 5段階のステップごとにそれぞれのポイントが示され, 生徒が目標をもって取り組むことができるよう工夫されている。 ・p.7のように『Question Q&A』と題したコラムが配置され, 主体的に活動し, 理解が深まるよう工夫されている。 ・楽器の特徴を理解する一助として, 演奏写真と楽譜が関連付けて示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『和楽器こぼれ話』と題したコラムが配置され, 発展的な内容が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『名曲スケッチ』と題してクラシック音楽の名曲が, 時代を追って, 解説付きで配列されている。 ・p.68にあるようにアンサンブルの楽器編成に弾力性を持たせ, 各校の実態に即して楽器編成できるように工夫されている。 ・口絵3にデスクトップミュージックが掲載され, 情報化社会に対応した内容となっている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・『発展的学習』と題して, 口絵2に『楽器に込められた思い』が取り上げられている。 				

選 定 に 必 要 な 資 料

美 術 科 No.1

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
D	<ul style="list-style-type: none"> ・1年「小中連携」, 2・3年上「表現活動重視」, 下「鑑賞活動重視」をテーマに, 系統的に題材が配列されている。 ・1年の p.4 ~ p.6 では, 多様な作品と共に学習活動の内容が5つの視点からわかりやすく紹介されており, 小学校の学習からスムーズに移行できるよう配慮されている。 ・題材ごとに観点別のねらいが掲げられており, 生徒が自ら目標をもったり評価をしたりしながら学習できるように配慮されている。 <p>なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品には, それぞれの特徴が簡潔な言葉で記されており, 作品を理解し, 自分の表現に生かしていくことができるよう配慮されている。 ・生徒の発達段階にともない, 人や環境と美術とのかかわりを考えながら, 自分たちの生活や未来を豊かに彩る題材が取り上げられている。 ・全体的に作品例や写真などがたくさん使われ, 色彩感よく構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材に生徒作品や活動の様子が多く取り上げられている。また, 生活の中に生かされるデザインが写真で紹介されており, 生徒の創作意欲を高める工夫がなされている。 ・作品だけでなく, 作者の思いや作家の言葉, 制作風景などが豊富に掲載されており, 学習内容を身近に感じることができるように工夫がなされている。 ・2・3年上 p.42, p.43 の『色彩ホームページ』では絵の具の材質や種類, 日本の伝統色にもふれるなど, 色彩について生徒の興味・関心をひく配慮がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・盆栽, 和菓子, 古い町並みといった物を一つの芸術としてとらえたコラムは, 日本の文化のよさを身近なところから再発見できる記述となっている。日本画, 水墨画, 仏像にも視点をあて一題材として大きく取り上げている。 ・様々な学習を通して創造性やコミュニケーションの能力が伸ばせるよう, 多様な表現の在り方が多角的な視点で紹介されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A4判に大型化され, 写真や図版, 作家の紹介, 技法や発想の手だて, コラム記事や脚注など, 題材の学習に役立つ様々な情報が豊富に掲載されている。 ・共同制作の様子や作品群を多く取り上げ, 創作活動の楽しさや喜びを皆で分かち合うことのすばらしさを伝えようとしている。 ・美術で培った力が, 日常生活を豊かにしている様子を豊富な写真で示されている。 ・身近な生活の中に造形活動を生かした仕事があることを知らせることにより, 進路学習にもかかわりをもたせようとしている。
J	<ul style="list-style-type: none"> ・1年「基礎編」, 2・3年上「絵・彫刻編」, 下「デザイン・工芸編」に分けられており, 1年生で学習した内容を, 2・3年生でさらに深められるような構成となっている。 ・生徒が作品を鑑賞する上での手助けとなるよう, 作者の言葉や作品解説が端的にわかりやすい言葉で表現されている。 ・題材や作品の解説が詳しく文章で載せられており, 生徒の理解がより深まるような内容となっている。 <p>なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた見たり読んだりすることができるレイアウトや配色になっている。 ・鑑賞領域の内容が多く取り入れられており, 歴史・地域・美術ジャンルなど様々な視点から追究できる構成となっている。 ・題材をイメージするための資料として, 作家が制作した作品の写真が多く取り入れられている。 ・限られた時間内でできる活動が厳選されて, 1年 p.36 のように『ワークショップ』として提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作活動への動機付けとして参考作品だけではなく, 身近な自然の写真や素材とふれ合う生徒の写真が大きく提示されている。 ・作品が完成するまでの過程が分かりやすく提示されており, 作品に対する理解を深めたり, 創作意欲を喚起する工夫がされたりしている。 ・作品の一部を拡大して実物に迫ることにより, 表現方法の特徴がよく分かり生徒の興味を引く配慮がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインや工芸が, 生活や暮らしとどのようにかかわっているかが, 様々な角度から分かりやすく紹介されている。 ・日本の伝統工芸や文化遺産を取り上げるとともに, アジアをはじめとする諸外国とのつながりにも視点をあて, 美術を通してそれぞれのよさや違いが理解できるよう配慮されている。 ・豊かな感性をはぐくむねらいから, 古くから現代にいたるまでの多種多様な分野の作品が取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3年下 p.30 ~ p.33 にあるように『わび・さび』『みやび』など, 日本独自の「美意識」に視点をあてた鑑賞教材が特徴的である。 ・現代美術の作品を作家との対話形式で紹介している。作家の考え方や生き方が分かりやすい言葉で表現されており, 貴重な資料となっている。 ・社会科でも学習する文化財がたくさん紹介されており, 教科相互で知識を深めるのに役立つ内容になっている。

選 定 に 必 要 な 資 料

美 術 科 No.2

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
M	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年「親しむ」, 2・3年上「深める」, 下「広げる」をテーマに, 題材の関連性・系統性に配慮して編集されている。また, 表現活動と同時に鑑賞活動も結びつけて学習できるように工夫されている。 ・ 各学年に設定されたテーマや学習のねらいが簡潔な言葉でわかりやすく表現されている。 ・ 生徒が偏りなく, 新しい文化や古い文化の両面に関心をもって表現活動できる内容となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参考作品の分量をおさえ, すっきりとした紙面構成である。一つ一つの図版が大きく, 作品の美しさが隅々まで感じ取れるように配慮されている。 ・ 2・3年上 p.19のように, 完成作品だけではなく, アイデアスケッチや構想, 制作途中の作品を提示することで, 生徒が見通しをもって制作できる構成にされている。 ・ 創造性とともにもコミュニケーション能力の育成が重視され, 特に2・3年下では, 暮らしや社会に役立つ題材やメッセージ性の強い題材が取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1ページ全面に, 筆触まで感じ取れるほど大きく取り上げられた作品は, 生徒の心情に訴える迫力があり, 関心や意欲を喚起することができるよう工夫されている。 ・ 作者の言葉や制作場面の写真により, 制作の意図や作品に込められた思いが伝わり, 創作活動に対する姿勢や意欲が高められるように配慮されている。 ・ 原始・古代の遺物やアジアの多様な美術について紹介しており, 人間や社会と造形活動とのかかわりに関心をもちながら学習できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人と人のかかわりや自然と人との調和に造形が果たす役割を考えさせる題材が取り上げられている。 ・ 2・3学年では, 生徒の学習内容に広がりや深まりをもたせ, 生涯学習へとつながる内容が効果的に上・下2冊に配列されている。 ・ 鑑賞領域では, 2・3年下 p.28, p.29のように美術館との連携や能動的な鑑賞学習など, 多様な鑑賞学習をサポートできるように, 内容の充実が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 厳選された作品群は, 名高い作品から現代の新しい作品までバランス良く取り上げられている。 ・ A4判に大型化され, 視覚効果を高め, より魅力的な教科書づくりがめざされており, 生涯にわたって活用できる美術書としての価値をもたせている。 ・ 折り込みのページを効果的に取り入れ, ワイドな画面で複数の題材や作品が関連づけて学習できるよう工夫されている。 ・ 人権・福祉, 環境, 国際理解, 平和などをテーマとする題材が設定されており, 他教科や総合的な学習の時間等と関連づけて学習を深めることができるように工夫されている。
	なし				

選 定 に 必 要 な 資 料

保健体育科 No. 1

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的内容が精選され, 学習を進める上で無理のない程度, 分量となっている。 ・ p.8 (『心臓の作り』), p.56 (『骨折やねんざについて』) のように, 詳しい図や表が随所に掲載されており, 生徒が理解しやすいように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.6 に見られるように, 各単元に『ベーシックワード』があり, 詳しく解説されている。 ・ 資料と本文のページが分けられており, 資料も大きくて見やすくされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.6 に見られるように, 毎時間の学習課題が明記され, それに関する図表・写真などがすぐ近くに掲載されており, 生徒の興味・関心を引き出し, 見通しをもって学べるように工夫がされている。 ・ p.52 ~ p.54 に見られるように, 実習内容が写真で示しており, 生徒が理解しやすいように工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.48 に見られるように, 日本全国における自然災害が示されており, 生徒が住んでいる地域とも関連づけて学習できるように工夫されている。 ・ 折り込み②には全国の運動施設が示されており, 地域にある施設が一目でわかるように工夫されている。島根県からも島根県立武道館, 出雲ドームが掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.24 に見られるように, 章末の『調べ学習課題例』に関連するホームページアドレスがまとめて表記されており, 生徒が主体的に活動できるよう工夫されている。 ・ 各単元に『生活に生かそう』という項目があり, 身に付けた知識をさらに伸ばせるように工夫されている。
<p>・ 巻頭や巻末のページに『発展』と明示され, オリンピックの歴史や心肺蘇生法などがまとめて記載されている。</p>					
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文が簡潔にまとめられており, わかりやすい。また, 資料が多く掲載されており, 生徒が理解しやすいように工夫されている。 ・ 各単元のはじめに『この章で学習すること』が簡潔にまとめられており, 学習していく過程が把握しやすくなるよう工夫されている。 ・ 視覚に訴える資料が豊富で, 詳しい説明も記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.98 に見られるように『リンク』として, 体育編と保健編との学習内容の関連が示されている。 ・ p.121 に見られるように, 世界地図を用いて HIV 感染者数を表すなど, 感染の現状をわかりやすく示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.32, p.34 などのように, 今, 話題となっている人物を紹介し, 生徒の興味・関心を引き出すように工夫されている。 ・ 『考えよう』に, 写真, グラフ, イラストなどが多く掲載されており, 生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.33 に見られるように『骨密度の増加, 減少』など, 今日的課題が取り上げられている。 ・ p.46 の資料に見られるように, 小学生からの統計が載せられており, 生徒が自分の成長を振り返りやすくなるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容のまとまりがつかみやすいように, 単元ごとに紙面の色使いが変えられている。
<p>・ p.130 に見られるように, 『発展』のマークを記した読み物資料や統計データを示し, 生徒が学習した事柄を生かして自分の人生設計を考えるなど, 発展的学習ができるように工夫されている。</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

保健体育科 No. 2

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
N	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.21 のように, イラストが豊富に使用されており, 生徒が理解しやすいよう工夫されている。 ・ p.70, p.71 に見られるように, 中学生の食生活に視点を当てた資料が多く掲載されており, 理解しやすい内容にされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.24 に見られるように, 生徒が單元ごとに理解の程度を確認できるように自己評価欄が設けられており, 評価項目も具体的に示されている。 ・ 生徒が自分の生活を振り返って記述する欄が多く設けてあり, 考える力や実践力の育成につながるよう工夫されている。 ・ p.3 に見られるように, 生徒に考えさせる場面では, 具体的なヒントと一緒に記述されており, 生徒が取り組みやすい構成にされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.2 に見られるように, 効果的な導入ができるよう, 毎時の課題がイラストを用いて分かりやすく提示されている。 ・ イラスト, 写真, 図など色彩を豊富にして興味・関心を引き出すよう配慮されている。 ・ 各章のとびらにある課題は, 実生活に即したものになっており, 日々の生活の中で様々な健康に関する知的欲求が高まるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『環境問題』をはじめとする今日的課題についての記述が豊富に掲載されている。 ・ 地域に出かけて見学したり, 調査する活動が数多く示されたりしている。 ・ 現代の課題の一つである若年層における『飲酒・喫煙・薬物』にかかわる内容が多く掲載されており, 生徒が自分の健康について考えられるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.58 に見られる『きずの手当て』や, p.76 に見られる『ガンを防ぐための12か条』のように, 健康で望ましい生活を送ることができる具体的な資料が豊富に掲載されている。 ・ p.23 などに見られるように, 『学びのヒント』として調べ方についての説明があり, 学習を効果的に進めることができるよう工夫されている。
	<p>・ p.22 や p.24 などに見られるように, 発展マークを付した『研究課題』や『column』の中で, 生徒の興味・関心に応じて取り組めるように工夫されている。</p>				

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭科（技術分野 No.1）

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
A	<p>○「技術とものづくり」の内容について豊富な分量で詳しく記述されている。また製作工程を説明する図やイラストが多く、内容が把握しやすい構成にされている。</p> <p>○「情報とコンピュータ」におけるコンピュータ操作の説明では、画面に表示されるウィンドウの必要な部分を取り出され、詳しい説明が加えられている。</p>	<p>○各単元の最後に『学習のまとめ』が掲載されている。問いに答えることで既習内容を振り返ることができるように、基礎・基本の定着に役立つ構成にされている。</p> <p>○ p.25 に見られるように、ものづくりの単元において、製品を構想する過程が理解しやすいよう、図が工夫されている。</p>	<p>○製作題材例の数が多く、製品の設計の際に参考となるCD等の収納数などが具体的に示されており、生徒が活用しやすいよう、配慮されている。</p> <p>○ページ下方の欄外に『ひとくち Memo』としてキーワードとなる言葉の語源や説明が紹介されており、興味を広げる工夫がされている。</p> <p>○環境問題を詳しく取り上げ、環境にやさしい製品の選択を促したり、p.146～p.147, p.237には製品リサイクルの具体的な流れを図示したり、理解を深める工夫がされている。</p>	<p>○ p.144～p.151 で今日的課題である環境問題への対応や福祉への配慮事項が重点的に取り上げられた単元として構成されている。</p> <p>○情報化社会の光と影の部分について、p.196～p.199, p.240～p.241 で具体的な事例や配慮事項が詳しく例示されている。</p>	<p>○図やイラストに丁寧な説明が加えられ、記載内容の充実が図られている。</p> <p>○ p.148 で現在使われている環境ラベルについて説明し、理解を深めるのに役立つ内容となっている。</p>
<p>○ p.43, p.95, p.97, p.104～p.105, p.113, p.120～p.121, p.161 に発展的な学習内容を取り上げ、図やイラストを多く用いて分かりやすく説明されている。p.120～p.121 の消費電力についての説明では、身近な電気機器の使用方法的例を挙げた省エネルギーへの取組など家庭生活との関連が具体的に示されている。</p>					
D	<p>○「技術とものづくり」の内容が精選され、必要な説明がきちんと確保されている。また製作工程を説明する写真が多く採用され内容を把握しやすい構成にされている。</p> <p>○「情報とコンピュータ」におけるコンピュータ操作の説明では、画面に表示されるウィンドウの図が多く取り入れられ、実際の操作場面に近い表記がされている。</p>	<p>○ p.92～p.117 に見られるように『エネルギーを変換して利用しよう』の単元に多くのページを割き『モーターの製作』を通してエネルギー変換のしくみが理解しやすい構成にされている。</p>	<p>○工夫された製作題材例が多く、実用的な機能が付加されたものが紹介されている。</p> <p>○ p.202～p.203 にあるプレゼンテーションソフトウェアを用いた作品づくりの例に見られるように、制作の手順が詳しく説明されており、生徒が実習しやすい内容となっている。</p> <p>○環境問題への対応の大切さを呼びかける表示が多く、リサイクル率の推移グラフを載せるなど、社会生活へつなげる工夫がされている。</p> <p>○自ら解決への課題意識を高めるための具体例が示されている。</p>	<p>○環境問題への対応や福祉への配慮の学習について、p.25, p.31, p.38～p.39, p.88～p.89, p.187 に見られるように、それぞれの単元の学習を発展させる形で脚注として紹介されている。</p> <p>○情報化社会の光と影の部分について、p.169 や p.177, p.179 でキーワードになる言葉を紹介し、調べ学習の課題として発問する形式にされている。</p> <p>○ p.121 で地域の環境に応じた品種の栽培を取り上げたり、栽培とたい肥を結びつけたリサイクルについて触れたり、身近な作物の栽培の工夫を取り上げている。</p>	<p>○『考えてみよう』『調べてみよう』など生徒に課題を投げかける構成が多く見られる。</p> <p>○各ページの右肩に、単元名と学習内容名を入れ色分けすることで、目的のページを開きやすいよう工夫がされている。</p>
<p>○ p.46, p.80, p.99, p.112, p.113, p.139, p.186, p.197 で発展的な内容を取り上げ、ユリのリン片から新しい球根を作るバイオテクノロジー実験やオリジナルパソコンの製作実習など生徒の興味・関心を高め、さらに学習を深めることができる構成にされている。</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭科（家庭分野 No.1）

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
A	<p>○全体的に絵, 図, グラフが多く使用されており, サイズも大きく, 生徒にとって使いやすいまとめ方がされている。</p> <p>○各单元において, 実習例が多く掲載されている。</p> <p>○各单元の『学習のまとめ』のページの分量が多い。</p>	<p>○各单元の『学習のまとめ』では, p.69 にあるように, 三段階で生徒が自己評価できるよう工夫されている。</p> <p>○各单元において, 実習で取り扱う例示が多く, 教材の選択に幅がもてるように工夫されている。(p.48 ~ p.65, p.120 ~ p.127, p.190 ~ p.195)</p> <p>○ p.1 では, 三年間の家庭分野の学習を通して, 生徒一人ひとりが, どのような力がついたのかを自己評価できる項目が設定されている。</p>	<p>○学習内容に係る写真や図が豊富に使われており, 生徒の感性を刺激し, 学習意欲が高まるよう工夫されている。</p> <p>○ p.202 ~ p.203 にあるように, ロールプレイングを取り入れ, 学習への関心を高められるようになっている。</p>	<p>○生徒が, 学習した内容を進んで生活の場で活用できるよう, 各单元の最後で自己評価を行い, これからの生活に生かすために, より具体的な実践例が挙げられている。</p> <p>○ p.101 にあるように, 実習例の解説が生活の場で活用しやすいようくわしく紹介されている。</p> <p>○ p.180 には, 学習内容が地域における体験活動につなげやすいよう, 具体的な実践例がくわしく説明されている。</p>	<p>○実践的・体験的な内容が多く扱われている。</p> <p>○考えたり, 調べたりしたことをまとめる欄が設けられている。(p.171 など)</p>
<p>○『発展』と明示され, 例えば日本の文化・伝統への理解を深めるものや, 食と照明の関係を考えるもの, 乳児期を取り扱ったものなどが, 取り上げられている。(p.129, p.149, p.183)</p>					
D	<p>○ p.1 ~ p.13 や p.20 にあるように, 使用されている写真が豊富で, 巻頭や各单元の導入部分に大きく掲載されている。</p> <p>○ p.90 にあるように, 生徒が理解しやすいよう, 内容が整理され, 図式化されている。</p> <p>○ p.108 ~ p.109 にあるように, 生徒が実習に活用する図が, 大きくくわしく示されている。</p> <p>○環境に関する学習内容が多く取り入れられている。</p>	<p>○各单元の冒頭にわかりやすく課題が設定されており, それについてまとめ, 発展する構成にされている。</p> <p>○全体的に基礎・基本の定着を押さえやすい構成となっており, 『学習のまとめ』では, p.61 にあるように, 学習の定着状況を確認できるよう工夫されている。</p> <p>○ p.219 にあるように, 視点を変えて考える教材が取り入れられている。</p>	<p>○ p.176, p.203 にあるように, 挙げられている例が生徒に親しみやすい内容であり, 学習への意欲が高まるように工夫されている。</p> <p>○各单元の冒頭や『参考』の欄に写真やインタビュー (p.141) を取り入れることで, より生活と関連づけて内容を捉えることができるものとなっている。</p> <p>○巻頭に視覚に訴える資料が効果的に示されている。</p>	<p>○生徒に考えさせる課題が多く設定されており, 課題の解決を通して生活の場での活用ができるよう, 内容が工夫されている。</p> <p>○各单元ごとに『参考』『ウォッチング』『発展』の項目が設定され, 地域での実践活動に結びつくよう工夫されている。</p> <p>○ p.9 には, 出雲地方の築地松が取り上げられ, 島根県内の特色ある『住まい方の工夫』が紹介されている。</p>	<p>○生徒に考えさせる基礎・基本の学習を通して, 生活の場で活用できるよう, 配慮されている。</p>
<p>○『発展』と明示され, 例えば食生活, 住居, 環境にかかわる新しい用語が紹介されるなど, 社会の変化に目をむけることができるような内容が多く取り上げられている。(p.59, p.125, p.135, p.215)</p>					

選定に必要な資料

英語科 No.1

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに応じて「聞く」「話す」「読む」「書く」活動が用意されており, 分量は適当である。 ・無理なく学習活動が展開できるように, 各課の新出単語, 基本文が基礎的・基本的なものに精選され, また, 日本語による用法の説明を加えるなど, 提示の仕方が工夫されている。 ・学習活動に有効な写真, 地図, 挿絵, 資料などが適切に配置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文で基礎・基本の定着を図り, その後にねらいに応じたコミュニケーション活動が用意されている。また, 巻末の『資料編』が豊富で, 調べ学習や問題解決学習に対応している。 ・3学年を通して, 「聞くこと」や「話すこと」などのコミュニケーション能力の基礎を確実に身に付けるように, 電話での会話や道案内などがくり返し配列されている(1年 p. 80 2年 p. 48 3年 p.66)。 ・言語の使用場面や働きが明示しており, 巻末にまとめられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が興味・関心をもつようにカナダでの生活, Eメール, 映画や英語の歌などが取り上げられ, 写真やイラストなどが適切に配置されている。 ・生徒が自分の思いや考えを自由に表現する活動が設定されているなど感性を高める工夫がされている。 ・各学年で3～5箇所学習した文型や文法を復習する活動を設け, 生徒が理解を深められるよう工夫されている。 ・知的好奇心を喚起する話題や資料が豊富である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会を生きていくために必要な日本の伝統文化の再認識, 異文化理解, ボランティア活動, 平和学習などの題材を多く取り入れている。 ・各学年で段階を踏まえながら, 自分や日本の情報について発信する活動を配置し, 巻末の『付録』や『Tool Box』が適切に対応している。 ・総合的な学習の時間と関連づけて発展させることができる学習内容や活動が取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際のコミュニケーション場面を想定し, 多様な活動を盛り込んでいる。 ・生徒が自分の考えを英語で表現する活動が多く取り入れられている。 ・4技能のバランスがよい。また, 活動のねらいが明確に示されている。 ・生徒の興味・関心を引くように今日的な話題と写真やイラストなどで学習を効果的に進められるよう工夫されている。 ・基礎的・基本的な学習内容から発展的な学習内容への関連づけが工夫されている。
<p>・実際の雑誌や写真集をもとにした読み物教材や『発展』と表示されたコミュニケーション活動が配置されており, 生徒の実態や指導のねらいに応じて活用できるよう配慮されている。(3年のみ)</p>					
D	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学年に応じた程度と内容の教材が用意されている。 ・各課にコミュニケーション活動のページが付随しており, 全体としての分量は適当である。 ・生徒の興味・関心を喚起するようにイラストや写真が適切に配置されている。 ・語彙の量は適当であり, 生徒が効率よく学習できるようにチェック欄を設ける工夫が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が見通しをもって学習できるように, 各課の学習目標が明記されている。 ・基本文を対話形式で示す工夫がされている。 ・コミュニケーション活動がしやすいよう, 各課の終わりに「聞く」「話す」「書く」「読む」の4つの活動が展開できる見開きのページ(3年 p.14)が配置されている。 ・各課は最初の2パートが会話文, 3パート目は読み物で構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各課の終わりの「話す」「書く」活動では, 文化祭やお店での会話といった身近な題材が設定されている。 ・アメリカ, シンガポール, ブラジル, オーストラリア, パプアニューギニア, イギリスなど広く世界の諸地域を題材として扱っており, 生徒が世界に目を向けるよう工夫されている。 ・巻末に文法のまとめや場面ごとの疑問文とその答え方が取り上げられており, 生徒が自主的に学習できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年にわたって国際理解, 環境問題, ボランティア活動, 人種問題など今日的な課題が幅広く取り上げられている。 ・1年生から3年生までクラスルームイングリッシュが発展的に取り上げられている。 ・巻末の単語と熟語の一覧表の中に単語の起源や使い方などの解説, 単語の詳しい説明がされている部分があり, 生徒が英語をより深く理解するよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学習を振り返り次への目標をもって学習を進めることができるよう, 各学年とも自己評価をするページ(3年 p.32)が3箇所ある。 ・本文, 基本文, 練習問題で対話形式が多く取り上げられており, 「聞く」「話す」を重視したコミュニケーション活動ができるよう工夫されている。 ・巻末に学年に応じた豊富な資料が用意されており, 生徒が自主的に学習できるよう工夫されている。
<p>・『発展学習』では, 学習指導要領では理解の段階にとどめる内容が対話形式で扱われており, 音声重視したものとなっている。(3年のみ)</p>					

選定に必要な資料

英語科 No.2

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
E	<ul style="list-style-type: none"> ・課の他に定型的な会話表現を練習するページ, 既習事項を使って自己表現するページなどがあり, 4技能がバランスよく配置され分量は適当である。 ・各課の学習後に, クラスやグループでのコミュニケーション活動, 聞きとり, 復習の問題が設定されている。 ・内容的には, 各学年の発達段階に応じたもので, また, 題材は多岐にわたっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各課にはまとめのページがあり, 1時間で学ぶ目標文を使ったコミュニケーション活動が用意され, 学習内容を定着させる工夫がされている。 ・1年生では, 一般動詞を用いた文から導入し, 生徒がコミュニケーション活動へ積極的に取り組めるようにされている。 ・課と課の間に会話表現の練習や自己表現のためのページが配置され, 実践的なコミュニケーション能力をつける工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な学習を促すために, 各課の導入に絵や写真とともに「聞く」活動や質問などを設けて見直しをもって学習できるようにされている。 (3年 p.4) ・日本のまんが, 映画, Eメールや英語の歌などが題材に取り上げられ, また写真やイラストなどが効果的に使われている。 ・語句についての説明, 発音の仕方やコミュニケーションをする上でのアドバイスなど生徒にとって分かりやすい工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解, 異文化理解, 環境問題, 福祉教育など今日的な内容が取り上げられている。 ・3年生では日本人の国際協力や実在の人物の生き方を読むなど, 英語を通して幅広い視野で多様な価値観にふれられる題材となっている。 ・生徒の自由な表現の参考になるように, 巻末の『付録』に表現活動に用いる語句が載せられている。 ・自分の町のパンフレットを作るなど総合的な学習の時間と関連づけて発展させることができる学習活動が設定されている (2年 p.52)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各課の導入部分から, コミュニケーション活動がしやすいように工夫されている。 ・学習したことを使ってペアやグループでの活動を通して目標文の定着を図るよう工夫されている。 ・学年が上がるにつれて読み取りを主目的とした本文構成にされている。 ・全体に日本語による記述があり, 生徒が自主的に学習しやすい工夫がされている。
<p>・『発展』と表示されたコミュニケーション活動が配置されており, 生徒の実態や指導のねらいに応じて活用できるよう配慮されている。(3年のみ)</p>					
F	<ul style="list-style-type: none"> ・各課の新出単語, 基本文が精選されており, 無理なく学習できる分量となっている。 ・各課の後に4技能の言語活動が適切に配置され, 実践的なコミュニケーション能力の育成に配慮されている。 ・写真や挿絵が豊富かつ適切に配置されており, 生徒の知的好奇心を喚起するものが多い。 ・生徒の身近な話題からアジア, アフリカの国々の様々な題材を取り上げ, 広い視野で国際理解の学習ができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各課の基本文が既習文型との対比の形で, わかりやすく提示されている。 ・各課が本文と技能別の教材から成り立ち, 前半で文法項目を押さえた後, 様々な活動で4技能をバランスよく習得できるよう工夫されている。 ・言語の音声面を重視し, 『サウンズ』で英語のリズムや発音を効果的に学習できるよう工夫されている。 ・言語の使用場面を重視した教材の構成になっている。 ・『Try』『Word Bank』, 巻末の『Reading Plus』など, 選択的・発展的な扱いの活動や教材が適宜配置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末の文法のまとめや辞書などの資料が充実しており, 自主的な学習の一助となるよう工夫されている。 ・英語以外の言語やアイヌの言語などを取り上げ, 生徒の言語への興味・関心を喚起できるよう工夫されている。 ・生徒が自分の思いや考えを自由に表現する活動が設定されている。 ・写真や挿絵により, 異文化理解や国際協力など, 今日的課題への興味・関心を喚起させる工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や学校生活から, 比較文化, 地球環境問題, 平和教育, 言語と民族など, 様々な分野の教材があり, 英語学習を通して国際社会に生きていくための豊かな感性と広い視野を培うよう配慮されている。 ・自己発信型のコミュニケーションが効果的にできるよう, 日本紹介の教材も多く取り上げられている。 ・生徒にとって身近な地域の話題が取り上げられている。 (3年 p.29) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「話すこと」に重点を置き, 4技能のバランスがとられている。 ・英語の学習を通して豊かな心情や感性, 国際感覚が身に付くように題材が精選されている。 ・1年時は自分の気持ちや身の回りの出来事, 2年時に事実関係を伝えたり判断したりすること, そして3年時で考えや意見を表現することを中心とした言語活動を取り扱い, 生徒の興味・関心や発達段階を考慮した構成にされている。
<p>なし</p>					

選定に必要な資料

英語科 No.3

記号	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心や感性への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態への適合等	5. その他の特徴等
G	<p>・ねらいに応じて「聞く」「話す」「読む」「書く」活動が十分用意しており, 分量は適切である。</p> <p>・生徒の学習の習熟度や興味・関心に対応できるよう学習活動が工夫されている。</p> <p>・登場人物の体験を中心に物語が進んでおり, 生徒にとって親しみやすい内容にされている。</p> <p>・学習活動に有効なイラストや写真, 地図, 挿絵, 資料などが適切に配置されている。</p>	<p>・生徒が見通しをもった学習ができるよう, 各課の目標, 場面, 状況, 学習する言葉の働きが明示しており, 学習内容が把握しやすいように構成されている。</p> <p>・目標のチェック欄を使い, 生徒が自己評価をしながら学習できるように工夫されている(3年 p.9)。</p> <p>・日記, スピーチ, ディベートなど自己発信型のコミュニケーション活動が多く用意されている。3年間を通して表現活動が効果的にできるよう段階的に配列されている。</p>	<p>・生徒の興味・関心を喚起できるようなイラストや写真が効果的に使われている。</p> <p>・各課ごとに文法のとめがあり生徒が基礎・基本を定着させ, 主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>・サッカー, ロボット, 平和, 福祉, 自然環境, 暗号解読など多様な話題を取り上げ, 生徒の興味・関心を喚起するように工夫されている。</p> <p>・外国の生活や文化に関する紹介が適宜取り入れられている。</p>	<p>・異文化理解や環境問題, 国際協力など今日的な課題を取り上げた題材が見られる。英語学習を通して国際社会に生きていくための豊かな感性と広い視野を培う工夫がされている。</p> <p>・話題を広く国内外に求めている。モンゴルやベトナムなど英語圏以外の国や北海道や沖縄, 俳句など日本の自然や文化の記述も多く取り上げられている。</p>	<p>・「聞く」「話す」「読む」「書く」活動が発達段階に応じた話題で設けられており, コミュニケーション能力育成の工夫がされている。</p> <p>・発展的な活動としてスピーチやプレゼンテーションが取り入れられている。</p> <p>・本文と練習やコミュニケーション活動が見開きに構成されている。</p>
<p>・『発展』と表示された発展的な活動や読み物資料が配置されており, 生徒の実態や指導のねらいに応じて活用できるよう配慮されている。(3年のみ)</p>					
J	<p>・各課の本文は全て日常生活で使われる自然な対話文であり, 手紙, 新聞記事などの短い文章や伝記など多様な形式の英語に触れることができるようにされている。</p> <p>・1年生から3年生までの本文がひとつのストーリーになっているため1年生の新出語彙がやや多いが, 全体の分量は適当である。</p> <p>・本文中に基本文は明記せず, 課の後半でまとめられている。</p>	<p>・各課は「聞く」活動で導入され, 本文について「読む」「話す」ことにつなげられるように様々なコミュニケーション活動が工夫がされている。</p> <p>・各課の後に基礎的・基本的内容を重視した「聞く」「話す」活動ができるように工夫されている。さらに, 各学年3~5箇所まで巻末に学習したことをさらに発展させる活動が設定されている。</p> <p>・本文で友情の大切さ, 命の尊さ, 勇気を持って行動することの大切さなど生徒の心に問いかけるテーマが扱われている。</p>	<p>・各課のはじめに, 本文を聞いて予想する活動があり, 生徒の興味・関心を喚起するよう工夫されている。</p> <p>・生徒が主体的にコミュニケーション活動ができるように巻末のメモを使ってペアで活動ができるよう工夫されている。(2年 p.10, p.16)</p> <p>・巻末にある『チャレンジ』の中に学習したことを自由に使ってみる発展的な活動が取り入れられている。</p> <p>・1・2年生の巻末に切り取ってそのまま使える単語カードがあり, 生徒の興味・関心を高める工夫がされている。</p>	<p>・各課のまとめは「聞く」「話す」を中心に構成し, 対話を作りかえて話したり, 発展的な学習として討論やプレゼンテーションを行ったりする総合的な自己表現活動が設定されている。</p> <p>・各学年で4~6箇所程度「読む」「書く」活動のページを設ける工夫がなされ, 4技能がバランスよく学習活動に取り入れられている。</p> <p>・学年が進むにつれ, 生徒にとって身近な話題から環境, 福祉, 平和など世界へ目を向けさせる今日的な話題になっている。</p>	<p>・3年間を通じて本文の内容が一つのストーリーになっているため生徒の読み取りたいという興味を引き, 場面や人間関係などの中で言葉の使い方を学習できるよう工夫されている。</p> <p>・本文は日常の会話で使われる英語を中心にまとめられている。</p> <p>・「聞く」「話す」を学習活動の中心にすえながら, 生徒に人間的な成長について考えさせるような内容にされている。(3年 p.60)</p> <p>・文字, イラスト, 写真などがシンプルに配置されている。</p>
<p>・巻末に高等学校で学習する関係代名詞を含む読み物が配置されており, 日本語訳が付いた『発展』と書かれた下線部分がある。(3年のみ)</p>					

※ 選定に必要な資料の各発行者記号（A, B・・・）欄の下段部分（破線以下）には、「発展的な学習内容」（明示してあるもの）について記述している。

※ 各発行者記号は次のとおりである。

記号	発行者名
A	東京書籍
B	日本文教出版(旧大阪書籍)
C	大日本図書
D	開隆堂
E	学校図書
F	三省堂
G	教育出版
H	教育芸術社
I	清水書院
J	光村図書出版
K	帝国書院
L	啓林館
M	日本文教出版
N	学習研究社
O	扶桑社
P	日本書籍新社
Q	自由社